

GRAPH MAGAZINE ●
Lapiz
ON LINE

breath of CITY
徒然の章
三匹が撮る！

編集長が行く 岩手県宮古市田老
歴史の街を行く スサノオ追跡

渡辺幸重のコラム 沖縄戦の悪夢再び
読切り連載 アカンタレ勘太

2019 Summer/Vol.31/Free



銃を持つ少女

Lapiz（ラピス）はスペイン語で鉛筆の意味。
地球上には、一本の鉛筆すら手にすることができない子どもが大勢いる。

貧困、紛争や戦乱、迫害などによって学ぶ機会を奪われた子どもたち。鉛筆を持てば、宝物のように大事にし、字を覚え、絵をかくだろう。

世界中の子どもたちに笑顔を。

Lapiz にはそんな思いが込められている。

Index

2019夏号 Vol.31

2019/6/1 発行 Free

巻頭言 2

CoverStory 山原章弘 さん 4

渡辺幸重のスペシャルコラム 沖縄戦の悪夢再び 6

breath of CITY 15

宿場町 成田街道・佐倉宿 78

原発を考える 84

とりとめのない話 89

びえんと 92

読切連載 アカンタレ勘太 140

Opinion 時代を元号でくくってみる 98

人物時計大阪ぐりぐりマルシェ 102

三匹が撮る！ 41

徒然の章 74

編集長が行く 岩手県宮古市田老 106

神宿る。スギの大杉 112

ミナミ気圧 116

旅するカメラ 愛宕念仏寺 121

歴史の街を行く 出雲大国 スサノオ追跡 135

編集後記 140

表紙

山原章弘さん

詳しくは
CoverStory を参照



巻頭言

Lapid 編集長 井上脩身

世界貿易機関（WTO）の紛争を処理する上級委員会は4月11日（日本時間12日）、韓国が福島など8県産の水産物の輸入を全面禁止しているのはWTO協定のルール違反とした1審の判断を破棄しました。福島第一原発の事故によって、魚介類汚染の疑いがあるとして禁輸措置をとった韓国に対し、日本は「科学的にみても安全」と訴えました。1審は日本側に軍配を上げましたが、上級審は日本の主張を退けたのです。上級審は1審の判断について「潜在的な汚染の可能性を説明できていない」と指摘しました。言い換えれば、「潜在的汚染を全く無視することはできない」ということです。実際、汚染の元凶である燃料デブリが事故原発から取りだされていないのですから、海洋汚染にともなう水産物汚染が疑われてもしかたがないでしょう。韓国は禁輸を継続しています。

報道によると、輸出が規制されているのは、青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、千葉の水産物。韓国は2013年、福島原発からの汚染水流出問題が起き

たために規制を強化、これら8県産の禁輸対象を一部から全てに拡大しました。これに対し、日本は「放射性物質の規制基準をクリアした水産物のみを出荷しており、韓国の規制は不当で差別的」として15年にWTOに提訴。1審で日本の主張が認められたことから、政府は「勝てる」と踏み、現在輸入規制を続けている23カ国・地域に規制撤廃の働きかけを強める方針でした。これらの国のなかには、アメリカ、中国、ロシア、EUなどがあり、水産界にとって今回の敗訴は大きな痛手となりました。

汚染の震源地である福島県では2015年4月以降、放射性セシウムの基準値（1キロ当たり100ベクトル）を超える魚はほとんど水揚げされていないといい、福島県漁連は「安全性の理解を広げていくしかない」と落胆。「海のパイナップル」と呼ばれるホヤの国内最大の養殖地である宮城県では、震災前、生産量の約4割を韓国に輸出していましたが、韓国の輸入規制で17年の場合、6900トン分も廃棄を余儀なくされました。「まさか

の敗訴」は養殖業者をどん底に落とした、と4月13日付毎日新聞は伝えています。

確かに水産業者には気の毒です。でも漁業者をどん底に落としたのは輸入規制ではなく、事故を起こした原発が放射性物質を排出したことです。海に漏れ出たことで、消費者は不安をおぼえるようになりました。その原因である燃料デブリは原子炉格納容器の中に残ったままで、東電は毎日400トンもの水を注入して冷却を続けています。

令和の時代に入って1カ月がたちました。この元号の考案者といわれる中西進大阪女子大名誉教授はWTO上級審の判断があった同じ日に東京都内で開かれた万葉集講座で「令和の令は発音が美しい。令嬢は令夫人と同様、和を形容する意味がある」と語りました（4月13日付毎日新聞）。実際、令和という元号は好評のようです。しかし私は「冷」という文字と重なり、いい感情をもてません。福島第一原発は廃炉できるまで冷却し続けねばならないからです。廃炉作業が終わるまで、和がやってこないのです。

天皇は現在59歳です。令和の時代は天皇が元気でおられるかぎり30年は続くでしょう。それは福島第一原発の廃炉への行程とほぼ一致します。令和の時代は原子炉冷却の時代なのです。和に至るかどうかの勝負の時代といっても過言ではありません。

令和の時代中に廃炉というゴールに到達するのでしょうか。もしゴールできなかったら、つまり想定以上に手

間どったらどのような事態に陥るのでしょうか。水産物汚染の疑い、では済まないのでは、と不安がよぎります。本号では原発廃炉の問題を考えてみました。

廃炉

了

カバーストーリー

山原章弘 (やまはら あきひろ) さん

写真・文 中川眞須良



三井社製の研磨機をバックに。

「今までに満足出来た仕事ですか……。100 パーセント満足したというのはいないですね。また特に出来栄がよく手元に残している品物もありません。しかしお客さんが『安く良いものを作ってくれた』と喜ぶ笑顔の記憶はたくさんあります。仕事ってそんなもんじゃないですかね。」

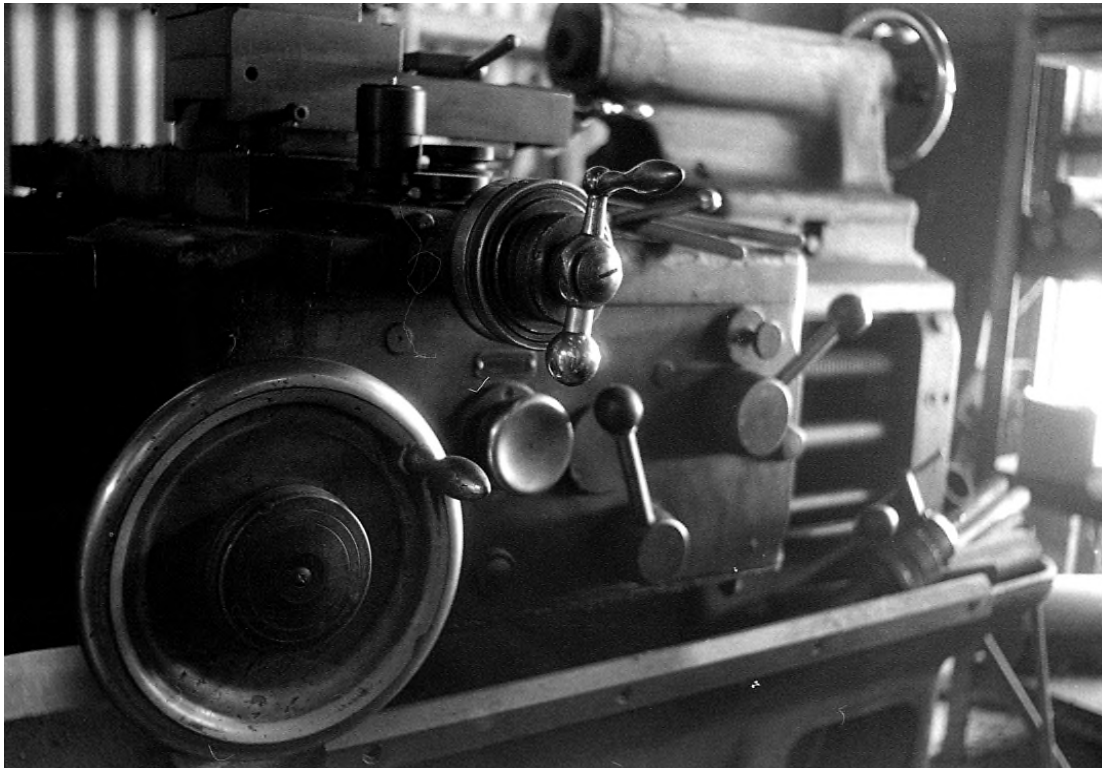
山原さんは「堺メタル」という所謂鉄工所の代表である。仕事はほとんどが受注生産、つまり特殊な製品の注文をこなす。金型から手作りする。工場内には、生野製作所製のプレス機(平成元年製)、三井社製の研磨機(使用 50 年以上)、国産のグラインダー (使用 55 年以上) など 7, 8 台の工作機械が所狭しと並ぶ。

そしてロッカーの隅から品物を取り出し、にこにこしながら、今は空いた時間にこんなのを作っています。カメラスタンドだ。皆さんから笑われてますが、今回は 100 パーセント満足を目指して見ましょか、かなり高価

になりそうやけど。あっはっは。

話の最後に昭和23年に父親の実家で福井地震を経験したことが今日の自分の物作りの原点だと話す。

「少し武骨でも丈夫な物を、デザインよりもまず実用性を重視、そしてお客さんに喜んでもらうことが、心の出発点となっているのかもしれない」



50年以上前の国産の旋盤



山原さんご自慢のカメラスタンド

大阪・堺市で1942年生まれ。

了

渡辺幸重の Special column

沖縄戦の悪夢再び 住民をスパイ視し、監視する自衛隊

—進む南西諸島の軍事要塞化と自衛隊情報保全隊の役割—

また、あの悪夢がよみがえるのか。

米軍の猛攻撃によって地獄と化した沖縄戦。大日本帝国の皇軍は、住民を置き去りにして南部戦線に主力を移し、住民は、慶良間諸島、本島中部の読谷・北谷に襲来した米軍の攻撃にさらされた。日本軍は住民を守るどころか、避難したガマから住民を追い出したり、住民に自決を迫ったりもした。さらには、多くの住民が日本軍によってスパイ扱いされた。久米島では、米軍にいったん捕らえられた者など20人の島民がスパイ容疑で日本軍に虐殺された。このうち10人は、8月15日以降の事件による犠牲者だった。

沖縄戦で住民が受けた被害は、戦闘参加や戦闘に巻き込まれての戦没のほかに「日本軍の刺殺、銃殺、絞殺、斬殺、毒殺等による虐殺」「日本軍によるガマ(壕)からの追い出し、殺害強要、自決の強要による死、食糧強奪による栄養失調死・衰弱死・餓死、傷病者の治療拒否や放置による死、日本軍から受けた怪我による死」などが挙げられる。戦争に悲惨でない戦争はない。そして、軍隊というものは自国の住民にさえ牙をむくものなのだ。

あれから約70年後のいま、ミサイル部隊をはじめとする自衛隊(日本軍)が南西諸島各地に配備されつつある。そこには防諜部隊(スパイ活動を防ぐ部隊)である情報保全隊の名前が含まれていることが明らかになった。軍隊が住民を監視し、スパイ狩りを行う時代が再び訪れる——そんな気配が感じられてならない。

自衛隊が次々に配備され、南西諸島が“ミサイル列島”に



地对艦ミサイル・SSM(陸上自衛隊サイトから)

与那国島に沿岸監視隊約160名配備の自衛隊与那国駐屯地が開設されたのは2016年3月28日のことである。そして、今年(2019年)の3月26日には、宮古島駐屯地(千代田地区)と奄美大島の奄美駐屯地・瀬戸内分屯地が開設された。石垣島でも3月に自衛隊基地の建設が始まった。また、自衛隊は馬毛島(西之表市)を島ごと日米の軍事拠点にするべく地権者との購入交渉を行っている。これらは新たな基地建設ということになるが、実は沖縄本島の自衛隊もF15戦闘機が20機から40機態勢になるなど増強が進んでおり、沖

縄県全体の駐留自衛隊員数は、2010年の約6,300人から2016年の約8,050人にまで膨らんでいる。これに、宮古島の約800人、奄美大島の約600人、石垣島の約600人が加えられようとしているから、いかに南西諸島における自衛隊の大増強が進んでいるかがわかる。

自衛隊は米軍の中国封じ込め政策に乗って、石垣島・宮古島・奄美大島に対艦・対空ミサイル部隊を配置し、中国の軍事行動を牽制しようとしている。

軍事ジャーナリストの小西誠氏は、与那国島の弾薬庫の規模の大きさから与那国島にもミサイル部隊の配備は不可避とみる。辺野古新基地は自衛隊基地にもなり、沖縄本島にも地对艦ミサイル部隊を新たに配備するという計画もある。南西諸島はまさしく「ミサイル列島＝軍事要塞」にされようとしているのだ。これらの動きが日本の国としてのあり方を変え、戦争の危機を呼び込む大問題であるにもかかわらず、本土の国民のほとんどは知らない。中央のメディアも無関心なのか、ほとんど報道しない。

与那国島・奄美大島・宮古島・石垣島で住民を監視する自衛隊情報保全隊

このような事態の中で、小西氏の情報公開請求により、与那国島に「自衛隊情報保全隊西部情報保全隊与那国情報保全派遣隊」(数名)が配置されていることが明らかになった。さらに、今年の3月31日に陸上自衛隊奄美駐屯地から発表された奄美駐屯地配備部隊の庁舎案内図には「西部情報保全隊奄美情報保全派遣隊」の名前が書かれていた。南西諸島に防諜部隊が配置されていたのである。



地对空ミサイル・中 SAM（陸上自衛隊サイトより）

小西氏は、本来なら陸上自衛隊の情報保全隊は、「方面隊規模の大部隊」を対象として配置れるもので、160人規模の与那国駐屯地、600人規模の奄美駐屯地に配置されるのは極めて異例としている。しかし自衛隊は、その規模でも配置した。ということは、800人規模の宮古島駐屯地にも当然配置されており、石垣島に自衛隊基地ができればそこにも配置されるのは確実だと小西氏は見ている。

いったい、これらの事実は何を示しているのだろうか。

情報保全隊(旧調査隊)とはどういう組織か、みてみよう。

情報保全隊の本来の目的は「自衛隊の機密が外部に漏れないように、自衛隊員を監視すること」である。従って、そ

のことに限れば数百人の隊員しかいない島に情報保全隊員を置く必要はない。ではなぜ、南西諸島には置くのか。

実は、情報保全隊はさまざまな市民運動に対して監視活動を行っており、これまでに問題にされてきた。

2007年6月に日本共産党が入手した自衛隊内部文書によって、自衛隊情報保全隊が日本共産党や社会民主党、ジャーナリストなどの報道関係者、市民や聖職者による自衛隊イラク派遣反対の活動や反戦運動、集会などに関して調査を行い、自衛隊関係者や国民世論への影響、活動の今後の見通しの分析まで行っていることが明らかにされた。「戦前の憲兵政治の再来だ」とも批判される内容だった。

防衛省はこれらの活動に関して「自衛隊法に基づく正当な任務」とし、「国会議員であれ、国民は平等に情報収集対象になりえる」と答えている。2016年2月の仙台高裁判決において自衛隊の市民活動を監視する活動が違法であると認定されても「自衛隊の情報保全隊の活動というのは適法な範囲で実施している」と開き直っているのだ。

(フリー百科事典『ウィキペディア』「自衛隊情報保全隊」の項目を参照)

小西氏は自らのブログ「今、自衛隊の在り方を問う！」(<http://u0u0.net/wnwx>)で、次のように述べている。

◎この情報保全隊が、隊員らの調査・監視業務から大きく離れて、もっぱら住民の調査・監視、スパイ(諜報活動)に任じるようになったのは、自衛隊の主要任務である「治安出動」と関係している。

すなわち、1960～70年安保闘争による反戦運動の社会



自衛隊の南西諸島配備計画(小西誠氏提供)

的広がりの中で、自衛隊はその最重要任務の1つとして、この時代に治安出動態勢に突入した。

◎重要なのは、この治安出動の規定は、国内の大規模デモなどを「間接侵略事態」（デモなどは外国からの教唆・煽動）として認定し、武力鎮圧を正当化していることだ。自衛隊が「災害派遣」などで、あたかも「国民を守る」かのような虚構に惑わされている人々にとって、この国民の正当なデモなど

を「外国の教唆・煽動による間接侵略」とする規定は驚くことであろうが、これが自衛隊の本質であり、実態なのだ。

◎ここでいう間接侵略事態の対象は、武装したゲリラだけではなく、「非武装程度の様相」の「非軍事組織に対する行動」、つまり、基地・自衛隊に反対する、あるいは戦争に反対する市民・住民ということである。（陸自教範『対ゲリラ・コマンドウ作戦』からの引用）

つまり、自衛隊は「陸上防衛作戦」の「島嶼戦争」下に、島々の住民対処——これは戦時下の住民避難としての対象ではなく、自衛隊の軍事行動を阻害し、妨害する反対勢力として、住民を対象化しているということだ。

◎現在、先島—南西諸島に配置された自衛隊は、あたかも災害派遣などから「住民を守る」という詭弁を使って、島々の軍事化を図っており、その任務や意図を住民から押し隠し続けている。「住民を守る」とする自衛隊が、なぜ、情報保全隊という諜報機関を配備し続けているのか？ この自衛隊当局のウソ、欺瞞を徹底して追及しなければならない。

民主主義の危機にどう対応するか

住民の活動を監視する部隊の配置は、自衛隊が戦前・戦中の日本軍と本質的に変わらないことを示している。戦時中、沖縄では住民が島言葉(沖縄語)を口にするだけで日本軍からスパイ扱いされた。日本軍にわからない言葉でスパイ活動を行っているというこじつけでひどい仕打ちを受けた経験を沖縄の人たちは忘れてはいない。

自衛隊という組織はれっきとした暴力装置であり、人を殺すことを目的とする軍隊である。災害が発生したら救助活動を行い、ゴミ拾いや祭りなどの地域活動の手伝いをし、地域に貢献したとしても本来の目的は変わらない。戦闘が起きたときに行うはずの住民保護活動は第二義的な目的で、余裕があるときにしか行わないだろう。そして、わざわざ南西諸島に配置された自衛隊情報保全隊は平时间段階から地域に入り込むことによって住民の活動を監視し、正当な住民活動を抑圧するとしか考えられない。自衛隊の行動を監視したり、自衛隊撤退を叫ぶ住民運動は軍から“にらまれる”ことになるだろう。

住民となった自衛隊員とその家族の選挙での投票行動を考えればすぐにわかることだが、軍隊が地域に入ることによって、地域社会は変質する。選ばれる首長や議員にも大きな影響を与える。軍によって小さな島社会の地域民主主義が破壊されることが許されるだろうか。

「米軍はダメだけど自衛隊はいい」という考え方も甘い。なぜなら、日米軍はアジア太平洋地域での共同作戦態勢が強

力につくられており、基地を共同使用したり、燃料や設備をお互いに提供し合うなど一体化が進んでいるからだ。さらに日本はアメリカ以外にもイギリス、フランス、オーストラリア、カナダとも物品役務相互提供協定(ACSA)を締結して連携を強化し、アジア太平洋地域において共同の軍事訓練を繰り返している。私たちは、日本国内及び周辺において自衛隊を含む軍備が総体として強化されていることを厳しく受けとめなければならない。戦争の足音が聞こえるのに権力をチェックする役割のメディアが沈黙していることにも危機感を感じるのは私だけではあるまい。情報保全隊が南西諸島でやろうとしていること、すなわち権力による監視は社会のあらゆる制度や組織を通じて私たちの日常に入り込んでいるのではないかと考えると空恐ろしくなる。南西諸島の自衛隊配備、軍事力の増強に反対することは、私たちの民主主義を守る重要な運動になるだろう。

読切り連載

アカンタレ勘太 <1>

作 いのしゅうじ

にゅうがく

おまわりさん帽子

勘太が小学校に入学した。

おじいさんがとてもよろこび、おいわいに学生帽をおくってくれた。

勘太はこの帽子をきりっとかぶり、おかあさんにつれられて学校の門をくぐる。金次郎さんがむかえてくれた。

金次郎さんは、たきぎを背にしょって歩きながら本をよむ二宮金次郎の像のこと。勘太は帽

子をぬいで、金次郎さんにぴよこんとおじぎした。もういちど帽子をかぶったとき、そばにいた二年生の勝也がはしゃぎたてた。

「アカンタレ勘太、おまわりさん帽子」

勘太はなんのことかわからず、ぼーっとして

いる。
すると、勘太とおなじ新入の子ら4、5人がいっしょになってふざける。

「アカンタレ勘太、おまわりさん帽子」

みんながかぶっている帽子は波だっているけど、勘太のはてっぺんが平だ。ときおり巡回にくるおまわりさんの帽子のようなので、みんなが



わらったのだ。
勘太は三つになっても歩けなかった。ほとんどの子は1歳半くらいには歩きだす。3歳にもなれば、自転車ではしりまわっている子もいるというのに、勘

太はよっちらよっちらとはいはいしている。

おかあさんは買い物にいくとき、いつも勘太をおんぶする。と、近所のおばさんたちが、「あのこ、アカンタレやねえ」

と、かげぐちをした。あっという間にうわさが広がり、悪ガキどもから勘太にアカンタレをつけて「アカンタレ勘太」とよばれるようになった。

おじいさんは、「この子は一生歩けんやろ。かくごしておけ」

と、なんだか勘太のおかあさんにいい放ったが、おかあさんはそのつど、きりっと言いかえた。

「わたしが歩けるようにします」

勘太がひょっこり歩きはじめたのは3歳と3カ月くらいのころだ。

お兄さんの淳吉がつくえの上で飛行機のもけいを作っているとき、勘太がいすにつかまり立ちした。

そのままひよろひよると二、三歩あるいているのを、ハサミをさがしていた淳吉が気づき、大声をあげた。

「勘太、歩いてる」

台所にいたおかあさんがとんできた。

「カンちゃん、やったね」

勘太をだきあげるおかあさん。涙をぽろぽろながしてる。

あくる日、となりまちにいるおじいさんがやってきて、勘太にやくそくした。

「学校に上がるとき、帽子を買うたる」

「帽子なんか……」

とけげんそうなおかあさんに、「ふつうのとちがう。りっぱな大人がかぶる。そんな帽子や」

おじいさんは大阪駅のえらい駅員さんにあこがれていた。いくつもの赤や金色の線がついた帽子をかぶっているからだ。

さすがに勘太におくった帽子に線はないけど、おじいさんの気分は「大阪駅の駅員帽」。

勘太の町から大阪駅まで電車で1時間半もかかる。ほとんどの子は大阪駅に行ったことがない。勘太の帽子を見て、おまわりさんの帽子とお

もうのもむりはない。

勘太のおかあさんは子どもたちをにらみつけた。

「この帽子はりっぱな帽子です」

勝也もまけてはいない。

「アカンタレ勘太には似合わん」

「この帽子をかぶったらアカンタレでなくなるの」

ナイフの先みたいなさるとい声に、勝也はひるんだ。

「負けたらあかんよ」

おかあさんにそういわれても、勘太は肩をすぼめてぶるぶるふるえていた。

レンゲのかんむり

伊ッ子せんせいがしゅっせきをとりはじめた。「名前をよばれたら、ハーイと元気よくこたえるのよ」

勘太の席はさいぜんれつ。伊ッ子せんせいは勘太のつくえの前にたっている。

せんせいは背がひくいのに、勘太が首をぐっとそらさないと顔はみえない。あおぎ見ると、まるい顔からやさしい笑みがこぼれている。

(こないだもこんな顔してはった)

勘太は1週間ほど前のできごとを思いだした。

おかあさんの買いものについて行くとちゅう

だった。タバコ屋のわきのポストに伊ッ子せんせいがはがきを入れようとしているのを、おかあさんが気づいた。

「あら、宮井先生、むすこの勘太。こんど入学しますねん」

宮井先生。名まえは衣津子。先生になってまだ1年。いつもニコニコ顔だ。みんな「伊ッ子せんせい」とよんでいる。

「ああ、アカン……勘太くんね。勘太くんのクラスの担任になるのよ」

伊ッ子せんせいになれなれしくしていた勘太のお母さんは、たいどをガラツとかえた。

「アカンタレですけど、よろしくお願いします」

と、頭を九十度いじょう下げる。

「勘太、ちゃんとあいさつしなさい」

「……」

カンタです、と言おうとしたが、声がでない。勘太ののどが、北極にほうりだされたみたいにこおりついてしまってる。

「すいません。しつけをきちんとしてなくて」

ぺこぺこ頭をさげるおかあさんの後ろに勘太はかくれた。

「井田勘太くん」

伊ッ子せんせいがなまえをよんだ。教室じゅうにひびく大きな声だ。そろっと勘太は手をあげ



教室の後ろにいたおかあさんが、
「勘太、ハイといいなさい」
と声をはりあげる。
勘太が声をしぼりだした。
「おしっこ」

わーっとみんなが笑った。おかあさんは顔を
まっかにしてその場にしゃがみこんでしまった。
「お便所にいきたかったのね。いいわよ、いって
らっしゃい」

というイッ子せんせいも出席簿で笑いをかく
している。

勘太は自分でもなぜ「おしっこ」と□ばした
のかわからない。声をだそうとしたら、どうい
うわけかおしっこがもれそうになった。

校舎はコの字型になっていて、勘太の教室は

た。でも「ハイ」
がのどからでて
こない。のどの
奥がぴしゃっと
戸じまりしてる。
ウンウンうなっ
てるだけ。
いまにも泣きだ
しそう。
「勘太くん。いな
いの？」

門の左。便所は門の右がわだ。講堂で入学式をお
えたばかりだから、勘太は便所のばしょをしらな
い。

勘太はいつのまにか門のそとに出ていた。

まわりはいちめん田んぼ。どの田んぼにもレン
ゲソウが植えられていて、レンゲの花がひらひら
と風にそよいでいる。

勘太は赤紫のレンゲのせかいにふらふらっと
入りこんだ。

「どうしたのかしら」

いつまでたっても勘太がかえってこないの
で、イッ子せんせいは便所をのぞきにいった。

「勘太くん、どこにもいない」

大さわぎになった。先生もお母さんたちも手
わけして探しまわる。

「レンゲ畑かもしれん」

とつげたのは勘太と幼稚園がいっしょだった
哲則だ。20分ほどして、勘太はみつかった。

勘太はレンゲソウをつんでいた。

「何するの？」

イッ子せんせいに、勘太は鼻水をすすりあげ、
ぽそとこたえた。

「レンゲのかんむりを作るねん」

「なんのため？」

「イッ子せんせいにあげるんや」

breath of CITY

archives

めぐりめく変化する都市光景を一期一会として感じるままに
ファンインダーのフルフレームで切り撮っています。

人間が利便性を探求して作り上げた都市が今や独自に生きる術を
得たかのように朝・昼・晩と表情を変えながら人の心を揺さぶり
その反応を眺めているかの様な虚実的な都市の空気感を撮らえて
行きたいと思っています。



北 博文

神戸生まれ。神戸市外国語大学卒業。
建築士、フォトグラファー。
<http://tefteff.com/index.html>







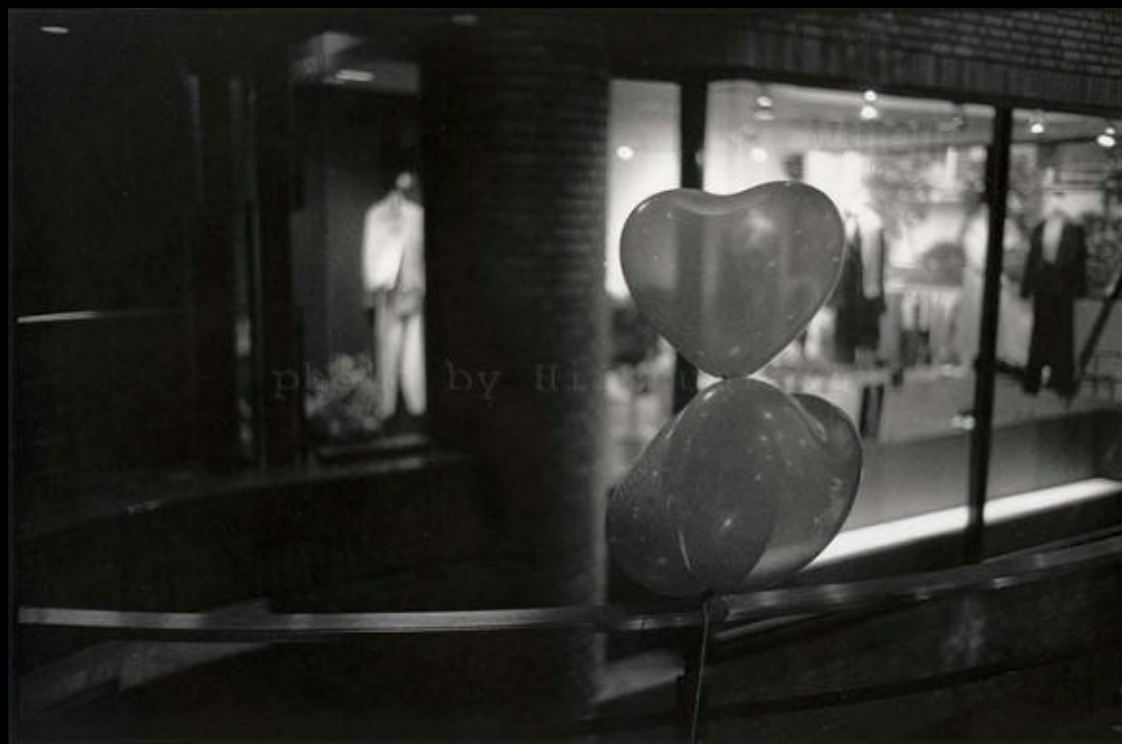








































breath of CITY 北博文





三匹が撮る！

Free assignment

ロシア・サハリン州ユジノサハリンスクに住む
一人の画家と写真記者、
それに日本人の写真家が競作する。

三匹が撮る！

三匹が撮る！

無題

ユジノサハリンスク

Dyu ・ Men Su

三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



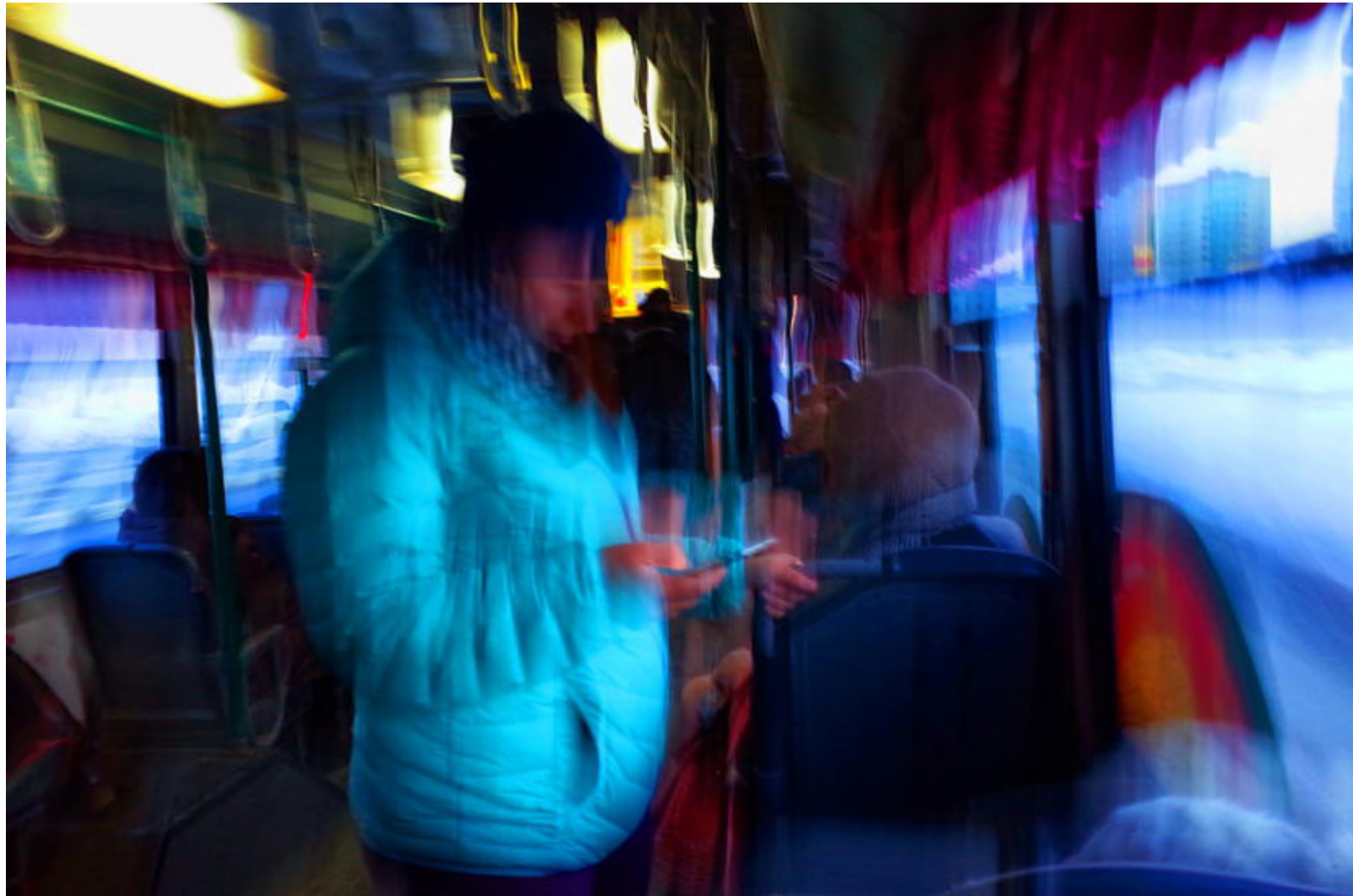
三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



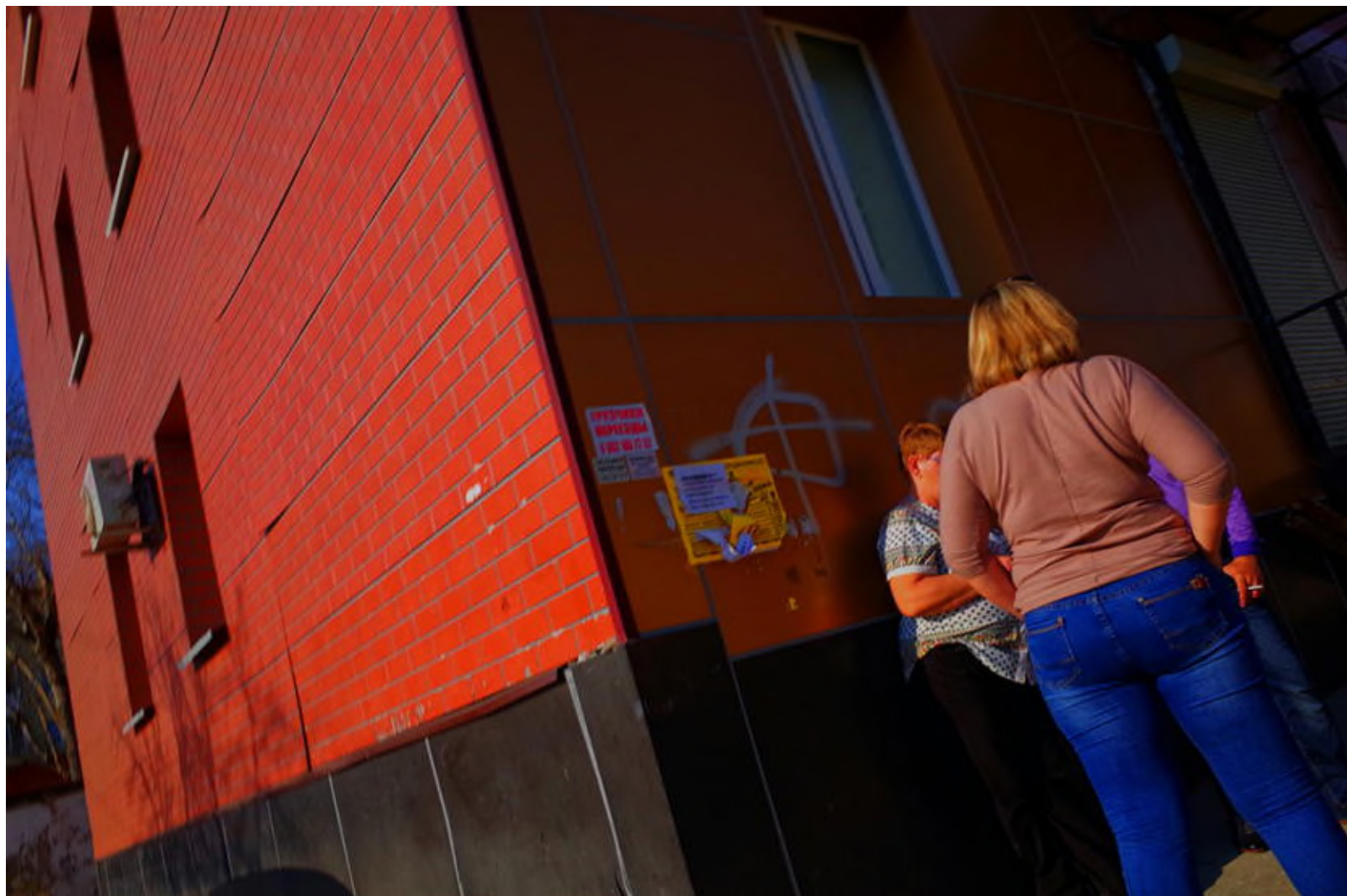
三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！

三匹が撮る！

サハリンに春が来た！

ユジノサハリンスク

Lee E-sik

三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



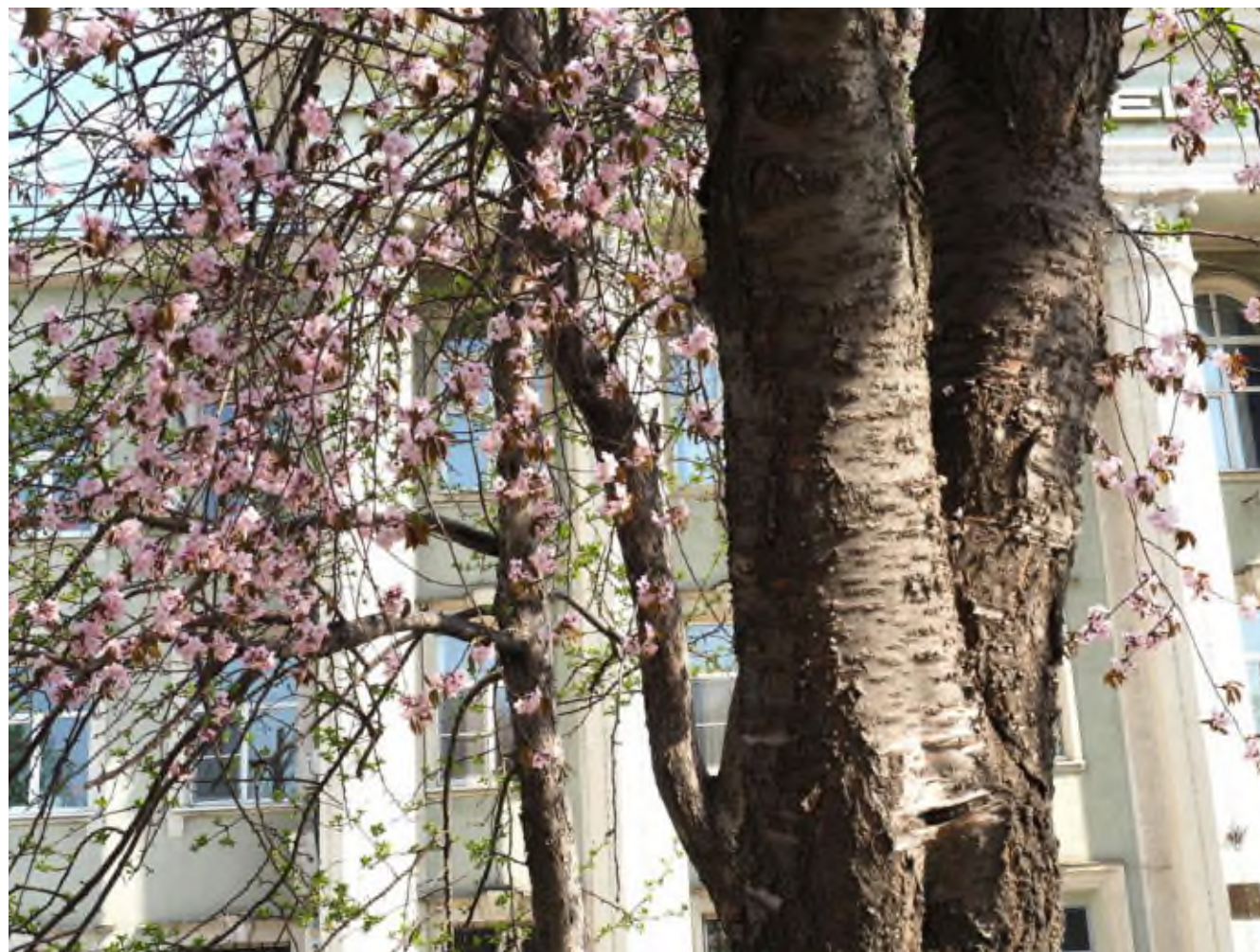
三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！

三匹が撮る！

モチーフとしての石

明日香・石舞台

Michio Katayama

三匹が撮る！



ご注意
石舞台の巨岩は絶壁に
上らないようお願いします
（石舞台の裏には深い崖があります）

三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



三匹が撮る！



中務敦行の 徒然の章

元読売新聞写真部長 中務敦行

この春は「花の命は短くて・・・」ではなく、各地でサクラは長〜く咲いたように思います。

4月26日、親しい人を見送るため千葉に行きました。車窓から見る花は東京の中心部では満開、千葉県の成田近くでは七分咲きでした。関西は例年ならもう3〜5分咲きなのにまだ咲き始め、肌寒い日が続き満開を迎えたのは入学式が始まるころ。

咲き始めた花は途中で寒波が襲来、いつまでも咲き続けた。

撮影にもよく出かけた。いつもと違うのは黄砂が少ないこと。

「満開の・・・」は秋のような青空、サクラ青空は恰好のバックだ。

そこにこの雲、春には珍しい。空あつての花だ。

花を求めて、各地を回った。

いずれもいつもと開花の時期が違う。

また昨年9月の台風でいたんだ木も多く、見るものの心もしおれる。

「咲いて良し、散って良し」がサクラだ。

奈良・橿原市の曽我川では花びらの流れをカモが泳いでいた。

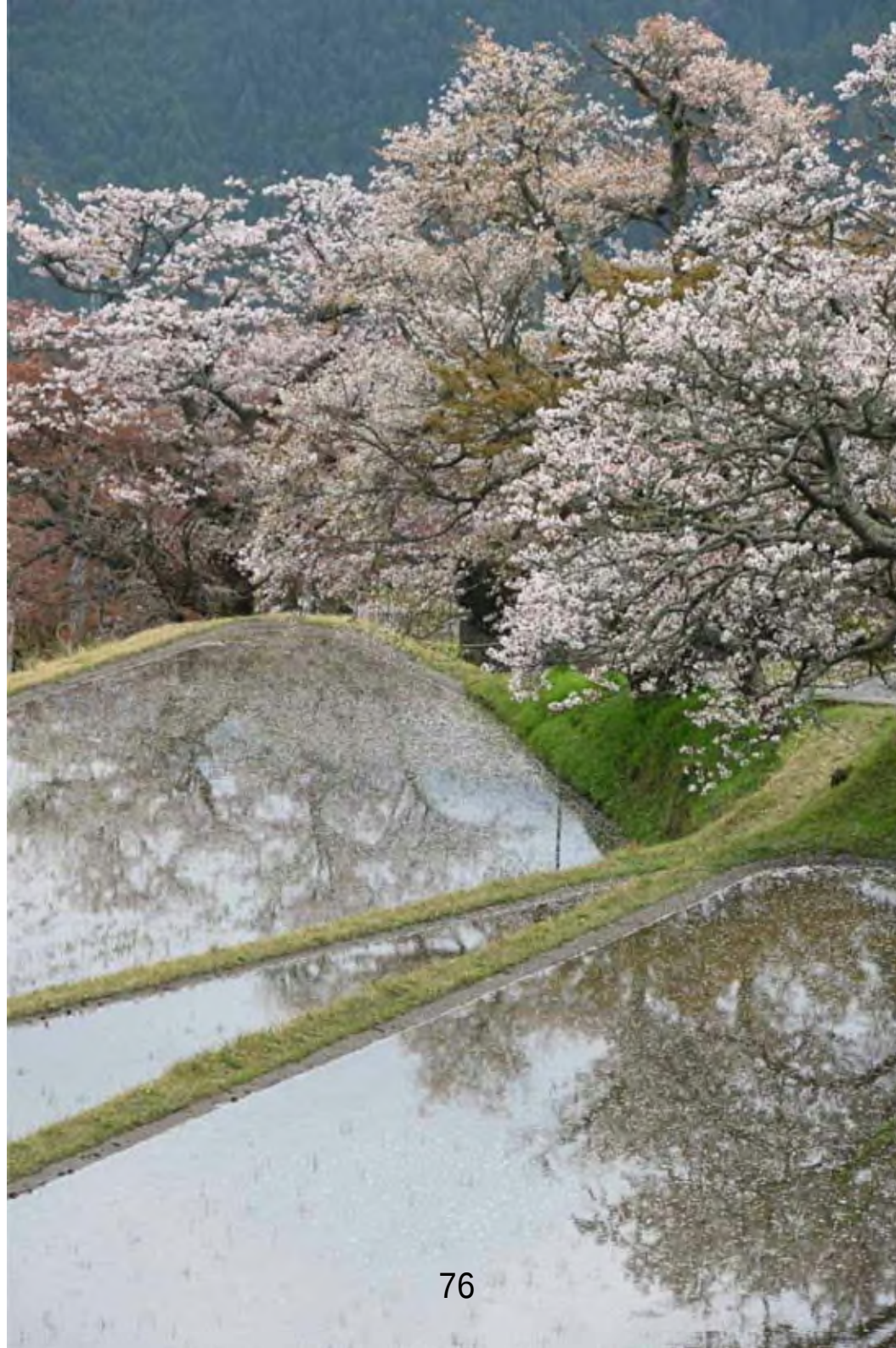
三重県津市の三多気のサクラは今年も田んぼの水に映えていた。

北海道では満開の花に吹雪だという。

年ごとに変化があるのがサクラの魅力だろうか。



満開の桜(大和郡山市ファミリー公園で)



三多気のサクラ



花びらの流れ泳ぐカモ」=橿原市曽我川で

宿場町シリーズ

成田街道佐倉宿

開明の風そよぐ幕末の街

～行き交う順天堂の門人と患者～

文・写真 井上脩身

日米修好通商条約を締結した初代駐日公使、タウンゼント・ハリスの銅像が佐倉城内にたっていると耳にした。佐倉は下総の国、現在の千葉県佐倉市。ここにハリスが行ったことはないはずだ。にもかかわらず、なぜハリスの像があるのだろう。

(右の写真：駐日公使、タウンゼント・ハリス像)



ふと司馬遼太郎の『胡蝶の夢』に佐倉の順天堂が登場するのを思い出した。幕末の蘭方医、松本良順をえがいた歴史小説だが、順天堂について「大坂の緒方洪庵塾（適塾）とならんで蘭学塾の日本における二大淵藪になる」と司馬はいう。開国か攘夷かをめぐって騒乱の嵐が吹きすさぶなか、佐倉は先取の空気につつまれていたのだろうか。佐倉は「成田のお不動さま」で知られる成田山新勝寺に通じる成田街道の宿場町でもあった。お不動さんへの参拝に向かう旅人たちは、この佐倉で何を見たのだろうか。

お城跡のハリス像



佐倉城天守閣跡

佐倉は東京から直線距離で東に約50キロ、成田からは南西約10キロの所に位置する。江戸時代、水戸に向かう水戸街道と分岐する形で成田街道ができた。幕府の文書には「佐倉街道」とも書かれている。この佐倉に1610年、土井勝利が城の普請を開始。佐倉は成田山への宿場町であるとともに、城下町にもなった。第五代藩主、堀田正睦はペリーが来航して2年後の1855年、老中に再任され、翌年56年、外国御用取扱を兼務する。その年にハリスが来日。正睦はいわばハリス担当幕閣であった。ハリス像が佐倉城内にあるのはこのことと大いに関係があるにちがいない。

以上を予備知識として私は佐倉にむかった。京成電鉄の佐倉駅で降り、駅前の国道296号を西へ。この国道は旧成田街道なのだ。20分ほど歩くと鹿島川にかかる鹿島橋に着いた。橋のたもとから城跡は間近だ。ここが佐倉宿の西の端とみてよいだろう。

鬱蒼とした森のなかの道を本丸跡へと進む。石垣はなく土塁を積み上げた形だ。天守閣はない。1813年、失火によって焼失した。老中まで輩出した11万石の城としては質素な造りだ。

ハリスの銅像は本丸跡から100メートル先にあった。ほぼ等身大の立像。左手にサーベルを提げている。台座には「ピアス大統領の親書を携え下田に到着しました。来日の目的は、他国に先駆けて日本と通商条約を結び、開国を実現させることでした。こうしたアメリカの動向が、開明派の藩主堀田正睦公を外交の舞台に登場させることになりました。（中略）正睦公の指揮下で交渉にあたってきた井上清直、岩瀬忠震の両名がアメリカ軍艦ポーハタン号に赴き、日米修好通商条約に調印しました」との佐倉市長名の説明盤が組み込まれている。その日付は平成20年6月14日。1858年に同条約が調印されて150年になるのを記念して2008年に建立



堀田正睦像

されたのだ。
ハリス像の向かいには堀田正睦の立像がたっている。こちらはライオンズクラブ創立40周年記念として06年にたてられたもので、「諸藩に先駆けて蘭学を導入した」と正睦を顕彰している。
佐倉城跡を後にして周辺を歩く。幅6メートルの古い道の片側に武家屋敷が保存されていた。旧河原家住宅、旧田島家住宅、旧武井家住宅の3棟だ。いずれも見学でき、わらぶきの質素な住居に鎧兜が安置されているのが印象的だった。

た。その隣には西村茂樹旧宅「修静居」跡。説明板によると、旧佐倉藩士の西村茂樹は儒学を修め、佐久間象山からも学んだとある。後で調べるとペリー来航に衝撃を受けた西村は堀田正睦に、積極的に海外に進出して貿易を行うべきだとの意見書を提出。正睦が外国御用取扱となると、貿易取調御用掛に任じられている。1873（明治6）年、福沢諭吉、森有礼、西周、中村正直、加藤弘之と明六社を結成。翌年「開化ノ度ニ因テ改文字ヲ発スベキノ論」という漢字廃止論を発表した。
西村だけをもって佐倉が開明の城下だったと言い切ることはできないだろう。だが、攘夷旋風の世を思うと、大いに興味がそそられる。それだけに、この旧宅に入れなかったのはいささか残念だった。

長州、会津の志士泊まる

お昼を「房州屋」というソバ屋で摂った。メニューに「般若そば」がある。初めて聞いたので注文した。そばつゆのほかに日本酒がなみなみと入ったお碗がついている。この日本酒を盛りソバにかけて食べるのだ。酒かけそば、といえはわかりやすい。

店の壁に「房州屋」と書かれた手提げ提灯がかかっている。一見時代ものにみえる。店内もレトロな工夫がこらされており、その昔、旅人たちが立ち寄ったかとも思えるたたずまいだ。

「房州屋」の斜めむかいに「佐倉養生所跡」の碑が建っている。幅2メートル、高さ1・5メートルの長方形の石碑。養生所は1867（慶応3）年、藩の医師、佐藤尚中が西洋式病院として開設。オランダ軍医ポンペや蘭医の松本良順が長崎に設立した長崎療養所をモデルにしたもので、藩士だけでなく領民の患者も受け入れた。安心して診察を受けるように、との領民向けの趣意書も出されたが、翌年に勃発した戊辰戦争で藩内が混乱、閉鎖を余儀なくされた。わずか1年の寿命だったとはいえ佐倉の開明ぶりを示す一つであることはまぎれもない。

この石碑の近くから国道を東にとって順天堂跡へと向かう。ここからは、国道も旧街道らしく古い商家が目につくようになる。その一つ、今井家住宅。1889（明治12）年ごろに建てられたとみられ、今井家は「駿河屋」の屋号で呉服屋を営んだ。ここは江戸時代の旅籠「油屋」があったところだ。長州の桂小五郎、会津の山本覚馬、庄内の清河八郎ら幕末を彩る志士たちが宿泊したことが宿帳に記録されているという。



佐倉宿の西橋付近の鹿島橋

今井家住宅からほど近い所に高札場跡。高札には、慶応4年3月、太政官名で人を殺し家を焼き財を盗むような悪行を行うな、などのお触れが記され、佐倉藩知事がこれを守れ、と添え書きしている。桂や山本、清河らが闘争に明け暮れていたころも似たような高札がかかっていたに違いない。彼らは触れ書きを見てどう思ったのだろう。

さらに10分あまり歩くと赤壁に格子窓の住宅が目に入った。三谷家住宅だ。説明板には「明治初年に建てられ佐倉の伝統的な民家」とあり、佐倉市の登録有形文化財に指定されている。

蘭癖の面目躍如

三谷家住宅から道ひとつ隔てた隣が佐倉順天堂記念館。佐倉順天堂の一部が保存、公開されているのだ。今回の旅の最終目的地である。歩き出して3時間がたった。入り口はなんの変哲もなく、上級武士宅の玄関といった風情だ。説明板にはおおむね次のように記されている。順天堂は蘭医、佐藤泰然が1843（天保14）年に開いたオランダ医学の塾。ここではオランダ医学書を基礎

としながら、当時としては最高水準の外科手術を中心とした医学教育が行われ、全国各地からやってきた多くの塾生が学んだ。泰然の養子、佐藤尚中は長崎でオランダ医、ポンペに学んだ後、系統的な医学教育を取り入れたことから、ここで学んだ塾生の多くが医学界で活躍した。明治時代、尚中はお茶の水に順天堂医院を開設。佐倉の順天堂は佐倉順天堂として医療活動を続けた。1858（安政5）年に建てられたものの一部が現在残っている。以上の記述から、佐藤泰然が順天堂を開き、養子の尚中が花開かせたとわかる。

建物の中に入るとまず泰然の肖像画にであう。長さ30センチほどもある長い白ひげをたくわえた面長な顔立ち。きつと目を見開いており、切れ長な目元は断固たる意志の持ち主であることを表している。江戸で塾を開いていた泰然が佐倉に移住した理由について、解説パネルに「蘭癖と呼ばれていた佐倉藩主堀田正睦の存在があった」とある。ここでも正睦が登場。「蘭癖（らんぺき）」と呼ばれていたというのだから、単なる開明派のレベルをはるかに超えていたようだ。

順天堂の門人は慶応元年の史料によると松前藩から宮崎藩まで110人。幕末から明治にかけて述べ1000人におよんだとみられている。入り口の説明板に「外科手術をした」とあるように、大腿部を切断している手術図がパネル展示されている。塾生たちに教えながらメスを施しているひげの男性は若き泰然なのか、あるいは佐藤尚中なのか。図だけではよくわからない。

順天堂に残る記録では1850（嘉永3）年から53年にかけて33例の手術が行われた。そのなかには13歳の女性の盲腸炎の手術、43歳の女性の乳がんの手術などがあつた。この乳がん摘出手術は1時間ほどで終了、



大腿部手術を描いた絵（記念館展示パネルより）

1849（嘉永2）年7月、長崎で我が国初の牛痘接種が成功、その5カ月後の同年12月、佐倉でも実施されるようになった。本稿の冒頭、佐倉が蘭学塾の日本における二大淵藪になると司馬が書いていると述べたが、長崎の蘭方医学を当初から積極的に取り入れたことが、この種痘接種からもうかがえる。

佐倉藩は順天堂での種痘接種が始まると「疱瘡（ほうそう）徐け」という木版刷りの文書を出した。そこには「江戸ではお姫さまも種痘をした。薬種料は藩の積立金から出すので医師への礼物の心配なく誰でも治療が受けられる」などと記され、加えて「漢方による種痘法は大いに害がある」とも付言されていた。蘭癖の面目躍如たる藩民サービスといえるだろう。

ほうそうと呼ばれた天然痘は「死に至る病」として恐れられた。この文書が配布されたことで、たちまち藩外にも治療のうわさは広がった。100万の人口をかかえる

苦痛と出血が少なかったという。私が注目したのは「泰然と種痘接種」の説明パネル。それによると、

江戸の町には患者は少なからずいたはずだ。佐倉なら2日で行ける。そこで治療を受けられるというのは大変な朗報だったに相違ない。順天堂には入院施設がないため、大黒屋市太郎など3軒の宿に患者が泊まった。ほどなくこれらの宿は病人宿と呼ばれるようになった。

佐倉は成田山への参拝者の宿場であるだけでなく、順天堂患者たちの宿場でもあったのだ。

決然とした佐藤泰然像

佐倉の私の旅は本稿の冒頭に書いたように、ハリスの銅像を小耳にしたことと、司馬の『胡蝶の夢』に佐倉が登場するのを思い出したことから始まった。この小説の中で、ハリス、堀田正睦、佐藤泰然がどう関係づけられているかを記して、この旅の終わりとしていたい。

（堀田正睦、佐藤泰然）

——蘭方医学を学ぶなら佐倉にゆけ。

ということが、東日本のその道の志望者の常識になりはじめているが、この塾は（松本）良順の実父佐藤泰然のひとりの手で興った。ただ佐倉十一万石の領主堀田備中守正睦が、江戸城の茶坊主あたりのあいだで、

「西洋堀田」

というあだなをつけられていたほどの開明家だったことも、順天堂の繁栄の条件のひとつになっている。

（正睦、泰然、ハリス）

「西洋堀田」

といわれた堀田正睦は、京都あたりの書生論壇がさわげば騒ぐほどその開明主義をいよいよ固くした。西洋と戦うよりは西洋の仲間に入ってしまう、という粗放単純



佐藤泰然胸像

子の良順に語ったりした。

順天堂の玄関前の庭に佐藤泰然の胸像がある。その決然とした面構えをみていて、佐倉はこの泰然と正睦、ハリスによって順天堂宿場町になったのだと確信した。私はこの数年、あちこちの宿場を歩いた。宿場町としては、佐倉は本陣跡もない地味な存在だ。だが、ほかにはない開明宿場であったことに、新鮮な驚きを感じた。そしてハリスの銅像が佐倉にあるナゾが解けた満足感をおぼえながら私はJR佐倉駅にむかった。

な開国論だが、その政治姿勢に小骨を付けたたり肉をつけたたりしてやるのが佐藤泰然の仕事だった。

のちに堀田が閣老筆頭になり、米国の駐日代表のタウンゼント・ハリスと折衝をかさねてやがては日米条約の調印まで漕ぎつけるのだが、この間、泰然が堀田の西洋知識の非公式顧問のようになって働いた。泰然はハリスの人間に惚れてしまい、そのことを息



旧街道の面影がたどよう佐倉市街



お触れが記されている高札場

原発を考える

見通しなき廃炉スケジュール 刻一刻太平洋汚染の恐怖

文 井上脩身

安倍晋三首相が、原発の汚染水はコントロールされている、と大見えを切って誘致した東京オリンピックの開催まで1年余りに迫った。だが、福島第一原発の廃炉への道のりは、事故から8年3カ月を経た今なお見通しがたっていない。メルトダウンを起したことによって、燃料デブリが予想以上に複雑な形で原子炉格納容器に散らばり、その取りだしが極めて困難になっているためだ。燃料デブリがある限り、水を注ぎこんで冷却しなければならない。その汚染水は地下に潜りこんでいく。同原発の地下130メートルのところに大水脈があり、この地下水脈が汚染されると太平洋の汚染につながる。その恐れがあることはラピスの「原発を考える」シリーズのなかでもふれてきたが、燃料デブリの状況から、太平洋汚染が起きる可能性が高まりつつあることはまぎれもない。

見通しないデブリ取り出し



廃炉作業が行われている福島第一原発建屋

同原発を廃炉するうえで最大の課題が燃料デブリの取りだしであることはいうまでもない。政府と東京電力は、1号機は19年4～9月試験採取、

2号機は19年10月～20年3月試験採取、3号機未定、とし、20年3月末に最初のデブリを取りだす号機を決定するとしている。21年から取りだしを開始し、51年に廃炉を完了というのが目標だ。

こうしたデブリ採取スケジュールにしたがって今年2月13日、2号機で初の接触調査を実施。遠隔操作で特殊な機器を原子炉格納容器内に投入し、堆積物の一部をつかんで持ち上げた。当初は「成功した」と関係者を安堵させたが、堆積物から30センチの地点で測った放射線量が7・6シーベルトと、想定より大幅に低かったことから、デブリの本命でないことが判明。この調査で動かしたのは小石状の堆積物ばかり1キロにも満たず、堆積物の表面の下にデブリが潜り込んでいるのか、燃料が

元々あった原子炉压力容器以外のところにあるのか、など正確な分布状態を突き止める見通しはたたなかった。
(4月19日付毎日新聞)

東電は2016年7月、宇宙線から生じる素粒子であるニュー粒子で2号機を透視した。燃料が本来あった位置は白くなっていて姿が消えている一方、底部には黒い物体が写っていた。こうした結果から「デブリの大部分は压力容器の底部にとどまっている可能性が高い」と発表した。だが、接触調査でその期待が薄れることとなった。

東電は今年度後半にも再度2号機の詳細なデブリ調査を行い、試験採取を行う方針だ。さらに1号機では今年度内に潜水ロボットなどの機器を投入して炉内調査を実施、デブリの試験採取を行う——などとしている。しかし、メルトダウンによって発生した燃料デブリは、2号機237トン、1～3号機の合計は880トンに達すると推定されている。最も取りだしが有力とされていた2号機についてすら見通しがたたない現状では、880トンものデブリの取りだしはもはや夢物語にひとしい

。燃料デブリについて、事故当初から「やっかいな形状をしているのではないかと」の心配の声がでていた。1979年のアメリカ・スリーマイル島原発事故では、燃料デブリは一つの塊となって炉心中央にとどまっていた。一方1986年の旧ソ連・チェルノブイリ原発事故では炉内に残った核燃料が真っ赤になって溶融、鉄やコンクリートなどと反応しながら地下へ沈み込み、建屋の



1号機格納容器内部の様子

悪い状態でないかとの不安が的中してしまった。

燃料デブリを取り出すプロセスは、汚染→止水→水張り→クレーン設置→デブリ取りだし、とされている。福島第一原発の場合、どのようなクレーンにすればよいのか。燃料デブリの状態がまったくわからない現状では、それも暗中模索だ。

地下に潜る汚染水

本稿の冒頭、地下130メートルのところに大地下水脈があると述べた。この問題を提起したのは元京都大講師の荻野晃也氏だ。荻野氏は『汚染水はコントロールされていない——東電・規制委・政府の最新公表データを読み解く』（第三書館）のなかで、「福島原発の敷地に関連する地下水流は大きく分けて3層ある」とし、地下水

地下室に象の足の形になって止まった。もはやスリーマイル島タイプでないことは明らか。象の足タイプでもないと思われるが、いずれにせよ

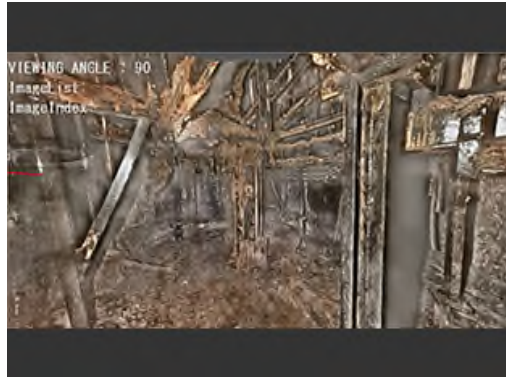
の汚染の可能性を指摘している。先に述べたように、本シリーズでこれまでも取り上げたが、地下水汚染の危険性が高まりつつある現状を踏まえ、重ねてこの問題を考えたい。

同書によると1層目は原発が建設される前は海崖から海に流れ落ちていた地表面に近いもの。大気圧と同じ圧力で動いているという。2層目は抑圧地下水といわれるタイプのもの。1層目より10～20メートル下を流れているとされるが、荻野氏は「もっと表面近くを流れているのでは」と疑う。荻野氏のみる通りなら、同原発は地下水流に悩まされるような条件の悪い地盤に原発が造られたことになる。

3層目は海面下130～190メートルにあり、原発敷地付近では北または北北西に流れているとみられる。

1層目、2層目の地下水源は降雨や河川からの流入によるものだが、3層目は双葉断層による地下水流と考えられている。流動量は1日に3000～4000トン。原発敷地周辺では塩水が混じっており、海水が逆流していると思われる。漁民たちが「原発の沖合10キロの所に湧水がある」といっていることから、荻野氏は「3層目は沖合5～10キロあたりで海底に湧き出ている」と推定。「地下水流が海底に湧き出するためには、何らかの断層や破碎帯が必要」として、活断層が横たわる可能性を指摘している。

燃料デブリは放置すると崩壊熱を発するため、冷却し続けなければならない。このため毎日400トンの水を注入している。さらに地下水400トンが敷地に流れ込



2号機格納容器内部の様子

むため、凍土壁や遮水壁を築くなどして海への流れ込みを防ごうとしている。またALPS（多核種除去設備）でトリチウム以外の核物質を除去している。しかし、汚染水入りのタンクが敷地にあふれかえっている

ため、ALPS処理後の排水を海に流すしかない、との声がでており、漁民たちが「風評被害が出る」と反発。凍土壁に対しても「完璧ではない」との指摘もある。

仮にこうした問題点を克服できたとしても、水が注入されたことによる汚染水が地下に染み込むことを防ぐことはできない。だが、東電のホームページを見る限り、その対策をとっているようにはみえない。

荻野氏は「政府報告書、国会報告書、学会報告書に3層目の地下水は全く登場しない」という。そのような地下水は汚染対策として考慮する必要がない、というわけだ。しかし、当の東電は2013年末までに地下25メートルの地下水が汚染されていることを認めている。4年足らずで地下25メートルまで汚染水が浸透するならば、20年で地下120メートルまで達する計算になる。現実には地盤などがからんでそんなに単純であるはないが、荻野氏は「2層目まで地下水の汚染は進んでおり、

さらに3層目に向かって汚染水は沈下しているはず」という。

すでに述べたように国や東電が決めた廃炉目標は約30年後だ。3層目まで汚染が進むと予想される時期から逆算したのではないかと勘繰りたくもなるが、いずれにせよ、30年先には廃炉できないと3層目の地下水が放射能汚染される恐れが大いにある。

このようにみると、接触調査によって廃炉の見とおしが立たなくなったのは実に深刻な事態なのだ。太平洋が汚染されたら、世界中がパニックに陥るだろう。「オリンピック総理大臣になれる」と浮かれているときではないのだ。それとも、「30年以上も先の話。オレは知らん」というのだろうか。

写真はいずれも東京電力ホームページより

了

原発を考える

「耳を疑うような話」

寄稿 一之瀬 明（年金生活者）

驚くような話が聞こえてきた。あの原子力規制委員会が、どんどん再稼働の許可を出している規制委員会が過日次のようなことを決めたという。そしてそれを発表したのだとさ。

ご存知のない方もおられようと思うので、2019年4月25日の朝日新聞が以下のように伝えた記事を紹介したい。

原子力規制委員会は24日、建設が遅れている原発のテロ対策施設について、設置期限に間に合わない原発に対し、運転停止を求める方針を確認した。電力会社の求めていた期限延長などは認めなかった。すでに再稼働した関西、四国、九州の3電力の5原発9基は、期限を迎える2020年以降に順次、運転停止を迫られる。

当然のことながら電力会社側は期限の延長などを申し入れた。しかし「工事が著しく遅れるような自然災害や経

済状況の変化はなかった」などと指摘が相次ぎ、設置が間に合わなくてもすぐに深刻な事態が起きるリスクが高まるわけではないとした上で、「不適合状態の原子炉の運転を看過することはできない」と電力側の意向を退けた。」

この決定が実際に行われると、来年から順次運転停止になる発電所が出てくるわけである。

驚くべきは、電力会社が「再稼働優先」でテロの安全対策を怠っていたことである。先ごろ、スリランカで大規模なテロ事件が起きたことは記憶に新しい。あんなテロ事件が原発で起きないという保障をだれがしているのだろう。東日本大震災が起きて福島第一原子力発電所の惨事をだれが責任を取ったのか。東京電力といえども、国民の税金から驚くべき額を引き出している状況で、なおテロ対策を怠っているというのには恐れ入るばかりだ。

安倍首相も「北朝鮮からミサイルが飛んでくるぞ」とばかり言っていないで、電力会社の尻をたたくべきだ。

了

中川眞須良の
とりとめのない話

《とりとめのない話》

walking(ウォーキング)

この言葉・国語辞典では「歩くこと・特に健康増進や運動のために歩くこと」・英和辞典では「散歩・バイキング・競歩など」と簡単に解説しているが我々の日々日常生活の中で、この行動の広さは無限です。
個人・グループ・法人が企画、開催する多種多様な「歩く催し」が全国で数多く行われている昨今、ここで以前私が参加した少しユニークな、思い出に残る「歩く催し」の一つを紹介しよう。

記

- 1 主催 (財)全国青少年交流協会
- 1 名称 全国 33 キロメートル飲まず食わず勝ち歩き大会・大阪大会
- 1 場所 淀川河川敷
スタート 大阪西中島南方、河川敷
ゴール 京都山崎、日立製作所グラウンド
- 1 概要 ・当日、スタート会場で参加申込み、ゼッケンを受け取る
・条件、スタートからゴールまで飲まず食わず、走らず
・スタートから 10 キロメートル地点まで、数人の先導員がつく
・途中、二カ所のチェックポイント(救急担当員待機)
・ゴールにて、テント内に医療班完備(救急車待機)
・完歩者全員に「完歩証明書」交付
参加人数 300 から400 人以上

1 参加者との途中の短い会話

会社の同僚か、にぎやかにしゃべる3～4人の男性グループ・

「頑張ってください、お先に行きます」

・ペット(犬)と一緒に一人参加の中年女性

「もっとゆっくり、まっすぐ歩きなさい」と2、3度

繰り返しながら、

・普段着(ブレザーに黒の革靴)のまま、ラジオを聞きながら、こちらも一人参加の中年男性

「軽い服装ですねえ、」の私の問い掛けに、全くの無言、無視

・揃いのユニフォーム姿の女子高生らしい7、8人のグループ

「女子校のバレーボール部、一年生です、全員強制参加です」お互い、「みんなの聞いてなかったよねえ、」

・京都市内の同じクラブの大学生数人

「5時間半を切れなかったら大変、来年も参加されます」

私に、学校名・クラブ名を聞く余裕なし

・第2チェックポイント(25キロメートル地点)の参加者と係員の会話

参加者、「靴擦れで足がいたくてもう限界」

係員、「ハンケチを靴の底に敷けば楽ですよ、ゴール後、治療を受けてくださいね、はい、頑張ってください」

この第2チェックポイントあたりから、のどの渇き、空腹、疲労などから会話はほとんどなくなり、ペースもスロウダウン、私も足腰の痛みを必死でこらえながら、「ゴールまであと1キロメートル」の表示地点で時計を見ればすでにスタート後、5時間を少し過ぎていた。その地点からゴールまでのことは「苦しかった」以外なにも記憶にない。しかしゴール後の2つの記憶だけは鮮明

だ。
それは全員に配られた小さな一つの牛乳パックの味、最高。
もう一つはトップの人と、そのタイムだ。
なんと私より約、2 時間も速い 3 時間 13 分、元オリンピック競歩選手であったとか……。

今もどこかでこの様な楽しい？ 歩く催し」が開催されているのでしょうか。



イメージ

びえんと

住民の思いこもる大島憲法

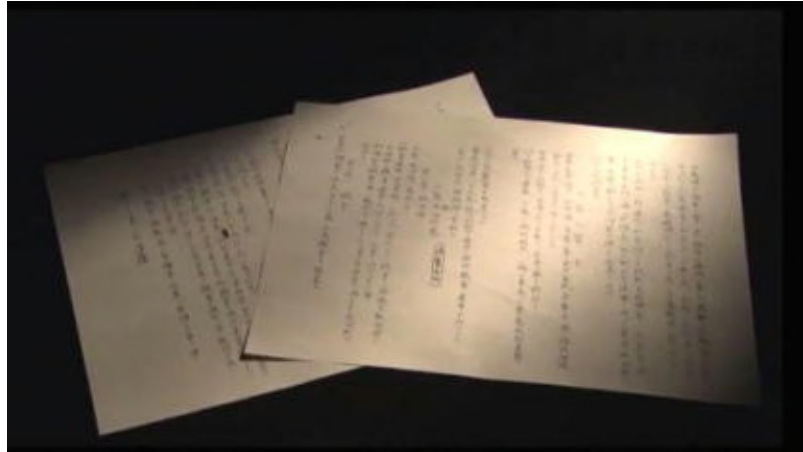
—平和と主権在民を掲げて—

文・写真 Lapid 編集長 井上脩身

現憲法公布前の伊豆大島

今春、伊豆の大島を旅した。勤めていた東京の民放を定年前に辞めて島に移住した学生時代の友人を訪ねるためだった。友人と三原山の頂上から下山中、彼から思いがけない話を聞いた。戦後、この島で独自の憲法草案がつくられた、というのだ。新聞で報じられた、と友人は言ったが、私は知らなかった。現在の憲法が1947年に施行される前に、島の人たちは自分たちの憲法を持とうとしていた、ということのようである。そうであるならば、戦争で塗炭の苦しみに遭ったこの国の民衆は、真に国民のための憲法を望んでいたことの証左であろう。それは現憲法が決して押し付け憲法でないことの傍証にもなるだろう。と考える旅から帰るとさっそく調べてみた。

民主主義精神のつとる



大島憲法の原本（ウィキペディアより）

名古屋学院大の榎澤幸広氏が2008年、大島でさまざまな調査を行い、13年、『伊豆大島独立構想と1956年暫定憲法』として論文を発表（名古屋学院大学論集社会科学編第49巻第4号）。論文はインターネット上で公開されている。友人が教えてくれた憲法草案は正しくは「大島大誓言」。「大島憲法」と通称されている。本稿でも大島憲法と呼ぶ。その大島憲法が作られるまでのプロセスの概要を榎澤論文にそってまず述べておきたい。

大島は終戦時、元村など六つの村からなり、人口は1万1000人だった。ポツダム宣言で「日本国ノ主権ハ本州、北海道、九州及四国並ニ吾等ノ決定スル諸小島ニ限定セラレルヘシ」とされたことから、伊豆諸島の島民

たちのなかで「米軍の信託統治下になるのでは」といううわさが広がった。結局はうわさに過ぎなかったが、こうした混乱のさなか、柳瀬善之氏が元村村長に就任。46年1月、六カ村の村長会が開かれ、「島民一丸となって強力な団体活動をする」ことで意見が一致。2月、村長のほか金融機関の人々も加わって合同協議会が開催され、「大島の最高政治会議のようなもの（をつくり）、島内在住民の総意により民主主義の諸施策を自治的に行い、島民生活の安定をはかり、世界平和に寄与する」ことを申し合わせた。

これを受けて、同年2月末から3月中旬にかけて「大島島民会（仮称）設立趣意書」が作成された。そこには①軍国主義の跳梁や誤った指導方針が悲惨な結果を招いた②われわれもそれを日本の真使命だと過信した結果、大島の現在につながった③理想の平和郷を建設し、世界平和に貢献する④住民が一糸乱れず民主主義の精神にのっとり、自らを律し生活の向上を図る⑤米軍と協力して世界平和建設に力を尽くせば、必ず文明人としてとり扱われる——などの決意がこめられた。

設立趣意書に併せて「大島々民会規約（案）」が作成された。ここでは、その目的として「民主主義ノ精神ニ則リ大島在住民ノ総意ニヨリ関係スル事業ヲ遂行スルモノトス」と掲げ、住民総意による民主主義をうたいあげた。

こうして大島憲法作成への素地ができあがった。その作成に関わったのが共産党員であった大島の大工、雨宮政次郎氏と、大島で『島の新聞』を発行した高木久太郎氏だ。

榎沢氏は、日本共産党が45年11月につくった「主



戦後間なしのころの雰囲気漂う波浮港の街並み

権は人民にある」など7項目からなる『新憲法の骨子』を雨宮氏は見ただろうと推察。一方高木氏については、『島の新聞』に「悪助役、醜い市議、不良吏の東京市、東京都編入も考へものだ」「村会とは議員各自の個性を発揮する處に非ず。村民大衆の総意を反映」などと書いていることから、地方自治への意識が高かったと、とみる。

前文と3章23条で構成

大島憲法が作成されたのは1946年1～3月とみられている。すでに触れたように、正式名称は「大島大誓

言」。「本島ノ激変ニ会シ其ノ秩序ヲ維持シ進ンデ島勢ノ振起ヲ図ルニハ基本法則タル大島憲章ヲ制定スルヲ以テ第一義ト思料スル」として、前文と3章23条から成る規定をもうけた。以下はその抜粋である。

大島大誓言

吾等島民ハ現下ノ情勢ニ深ク省察シ島ノ更生島民ノ安寧幸福ノ確保増進ニ向ッテ一糸乱レザル巨歩ヲ踏ミ出サムトス

吾等ハ敢テ正視ス、吾等ハ敢テ甘受ス、吾等ハ敢テ断行ス

仍テ旺盛ナル道義ノ心ニ徹シ万邦和平ノ一端ヲ負荷シ茲ニ島民相互嚴ニ誓フ

- 一、 近ク大島憲章ヲ制定スベシ
- 一、 暫定措置トシテ左記ノ政治形態ヲ採用シ即時議員ノ選挙ヲ行フベシ
- 一、 当分ノ間現在ノ諸機関ハ之ヲ認ム

大島政治形態

第一章 統治権

- 一、大島ノ統治権ハ島民ニ在リ
- 二、議員選挙有資格ノ二割以上ノ要求ニヨリ議会ノ解散及執政府ノ不信任ヲ議員選挙有資格者 投票ニ付スル事ヲ得
此ノ場合及議会若ハ執政府ヨリ発セラレタル賛否投票ハ総テ多数決ヲ採用ス

第二章 議会

- 三、島民ノ総意ヲ凝集表示スル為メ大島議会ヲ設置ス
- 四、議会ハ一切ノ立法権ヲ掌握シ行政ヲ監督ス
- 五、議員ノ任期、三ケ年
- 六、議員ノ選挙方法ハ衆議院選挙法ノ主意ヲ採用ス



北側の海上から見た大島全景

七、(略)

八、議会ハ議長之ヲ招集ス

九、議長副議長ハ議員ノ互選ニヨル

一〇、議会ニ於ケル議員ノ言論ハ議会外ニ於テ責ヲ負ハズ

一一、(略)

一二、(略)

一三、議会ハ必要ト認ムルトキハ島民ヲ招致シ其ノ意見ヲ聴取シ得ル事

一四、議会ハ執政府ノ不信任ニ関シ有権者ノ投票ヲ要請スルコトヲ得

第二章 執政

一五、島民ノ総意ヲ施行シ島務一切ヲ処理スル為メ四名ヨリ成ル執政ヲ設置ス

一六、執政ハ連帯責任トシテ島務一切ニ付其ノ責ニ任ズ

一七、任期ハ三ケ年

一八、執政長ハ執政ノ互選ニヨリ定ム

一九、執政長ハ島ノ首長トシテ内外ニ対シ島ヲ代表ス

二〇、執政ハ議会之ヲ推薦シ議員選挙有資格者ノ賛否投票ニ依リ選任ス

二一、執政ハ議会ニ対シ予算決算案及び其ノ他ノ議案ヲ提出シ其ノ審議ヲ求ムベシ

二二、(略)

二三、執政ハ議会ノ解散ニ関シ有権者ノ投票ヲ要請スル事ヲ得

「欠ケテル点ハ司法権」(「」内は後の書き込み)

国民の願いの具体化

大島憲法が作られて8カ月後の46年11月、日本国憲法が公布された。すでに述べたように大島は日本の領土として認められ、暫定だった大島憲法を現実化する必要がなくなった。やがてその存在は忘れられたが、大島で教員をしていた文化財保護委員の藤井伸氏が原本を発見、1997年1月7日付で朝日新聞が報じ脚光を浴びるようになった。

なかでも注目されたのは前文で「万邦和平ノ一端を负荷シ」と平和への思いを強くうたいあげたことだ。同紙の報道に際し、憲法学者の古関彰一氏は「思わぬ危機に直面したとき、自分たちがどう生きていくかを模索し、持てる知恵と知識のすべてを生かして憲法を作ろうとしたことはすごい。法律は必要とする人が作る。それは専門家でなくともできるのだ、ということを見せてくれる」とコメントを寄せた(榎澤論文)。その古関氏は著書『平和憲法の深層』(ちくま新書)の中で「敗戦後の日本人が多く苦難を償いつつ自信をもって精神の平和を得て明るく生き始めていた」と、現憲法ができる背景として日本人が強く平和を求めていることを強調している。そうした当時の国民の思いを具体化したのが大島憲法といえるだろう。

一方、大島憲法は第1条で「大島ノ統治権ハ島民ニ在



劇「みすてられた島」のチラシ

主義から島民統治主義に変えようとしたことは明白だ。この「島民統治」は現憲法が「主権在民」をうたいあげるに至るプロセスの一つとみることができる。

大島憲法にも問題はある。この憲法の元でもある「大島島民会（仮称）設立趣意書」に「米軍と協力して世界平和建設に力を尽くせば、必ず文明人としてとり扱われる」としていることだ。米軍が平和をもたらしてくれた、という素朴な島民の思いから生まれた発想だろう。今から見れば悲しい錯誤というほかない。

り」としていることを重視したい。明治憲法の第1条は「大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」と天皇統治を掲げている。これに対し現憲法の第1条は「(天皇の象徴の)地位は、主権の存する日本国民の総意に基く」と、主権在民を規定している。大島憲法をつくった人たちにとって憲法といえば明治憲法しかなかった。したがって明治憲法の規定を下敷きとしながらも、天皇統治

「押し付け」でない証拠

2014年5月、大島憲法の原本が行方不明になっている、と朝日新聞が報じた。戦後の日本人の憲法への思いを示す貴重な史料が失われたことはかえすがえす残念である。

だが、この報道がかえって大島憲法が見直されるきっかけになったことも事実だ。

2017年、東京・調布市の郷土史家の古橋研一氏が『幻の大島憲法草案』と題する280ページの冊子を作製した。古橋氏は国会図書館で元村の旬間広報紙「もとむら」の2号（46年2月25日発行）～第8号（同年9月15日発行）の写しを見つけた。そこには6村長らでつくる準備委員などに関する記述があったことから、さまざまな資料をまじえて冊子にまとめた。毎日新聞が17年月4月26日付都内版で報道。記事によると、古橋氏は大島憲法について、「日本共産党の新憲法の骨子」と共通点があるとしながら、「骨子の理念を取り入れ、独自の憲法草案を作った」と結論。「GHQと関係のない素人が作った憲法草案が、現行憲法に通じる主権在民や平和主義をうたっている。戦争から学んだ当時の一般国民がこうした考えをもっていたことが分かる」と評価しているという。

同じ17年月、東京新聞が「大島大誓言が教えるもの」と題して①主権在民を掲げ、リコール制も盛り込んでいる②戦前、大島では自治権や公民権を制限する「島嶼町村制」という差別的な制度が敷かれていた③こうした状況を反面教師とした——などとして「大誓言の存在は、明治から昭和にかけて数多くつくられた私擬憲法とともに

に、平和主義や主権在民が、日本人が自ら考え出した普遍的結論であることを教えてくれる」と論評した。

今年7月、東京・紀伊國屋サザンシアターで青年劇場「みすてられた島」が公演される。大島憲法から構想を得て、突然本土から独立を言い渡された架空の島の混乱を描くもので、中津留章仁演出。大島憲法そのものが直接のテーマではないが、島の人たちが「独立となれば憲法を作らねば」とかんかんがくがくの議論をする、というストーリー。憲法とは何なのか、を考えるうえでの一つの素材の提供になりそうだ。

安倍晋三首相は「現憲法はアメリカからの押し付け憲法」として、在任中に改変への道筋をつけようと政治生命をかけるなか、以上みたとおり大島憲法がクローズアップされている。現憲法は国民が求める憲法であった、と多くの人たちが信じているからにはほかならない。

了

Opinion

「時代を元号でくくってみる」

山梨良平



歌川貞秀《神名川横浜新開港図》1860（万延元）年

一か月前、つまり4月30日から5月1日は、さながら元号狂騒曲が国中に吹き荒れていた。よほどマスコミは「報道していい」ネタがないのだろう。

確かに明仁上皇はその在位中は国民の痛み、特に戦争、

震災などの天災に心を寄せられた。尊敬に値する行為である。

そういう意味では、平成という時代は上皇の心ある行動で評価すべき時代だった。しかし眼を政治や社会に向けると、おぞましいまでの状況である。国民の格差は広がり、モノ言えぬマスコミはだんまりを決め込み、政権はしたい放題の時代であった。

安倍首相は事あるごとに「明治への回帰」を話す。例えば防衛大学校（横須賀市走水）の卒業式で訓示し、憲法に自衛隊を明記する9条改正への意欲を改めて示した。「自衛隊が強い誇りを持って職務を全うできるよう、環境を整えるため全力を尽くす」と強調、憲法改正を念頭に「政治も責任を果たす」と述べた（神奈川新聞）。

首相が危なっかしいのは、十分に憲法やその制定過程、また先の戦争で完璧なまでの敗北を期したこと、その



大正時代の女性

原因などを理解していない節があると感じられるからである。その何よりの証拠と思えるのは 2013 年 4 月 27 日に某イベントで安倍首相が迷彩服姿で戦車に乗り満面の笑みをたたえて手を振っている姿を写真に撮らせたことだ。

この写真を目にした筆者は啞然としたのと同時に、安倍首相はほとんど「何も考えなしに好きなことに興じる」性格だと理解した。つまりバカでしかないということだ。

さて元号だけで世の中をくくるのはいささ

か乱暴だが、あえてやってみたいと思う。

まず安倍首相など「明治回帰病」に罹病している患者たちは、例えば皇室の伝統などとはざいて、「女性天皇」はおろか「女性宮家」も認めようとしない。おそらく安倍首相たちの支持母体がウンと言わないのだろう。安倍たちはその立場を追われるのが怖いのか、盛んに「明治時代」をほめあげる。しかし女性天皇や女性宮家を否定してきたのは、たかだか 150 年ほど前の明治からだった

と記憶する。

第 33 代推古天皇、第 35 代皇極天皇、第 37 代斉明天皇、第 41 代持統天皇、第 43 代元明天皇、第 44 代元正天皇、第 46 代孝謙天皇、第 48 代称徳天皇、第 109 代明正天皇（在位 1629 年 - 1643 年）

第 117 代後桜町天皇（在位 1762 年 - 1770 年）

このように少なくとも 11 代の天皇は女帝だった。この歴史を無視して明治以降だけが皇室の伝統などとまやかしているのだ。

そして明治という時代は、富国強兵策や殖産振興策を取り、近隣諸国、特に朝鮮、中国、台湾を侵略し、その後の太平洋戦争への道筋をつけた時代である。安倍首相などは、こんな明治を目指しているのだ。



迷彩服で戦車に乗る安倍首相

何よりの証拠は「北朝鮮のミサイル騒ぎ」

で東京の地下鉄までも止めて危機を煽ったことである。最近のあおり運転どころの騒ぎではない。

その点、大正時代は明治の反動なのか、「大正浪漫」や「大正デモクラシー」などと言われて、文化が花開き、知的感性を磨いた時代だったと言える。

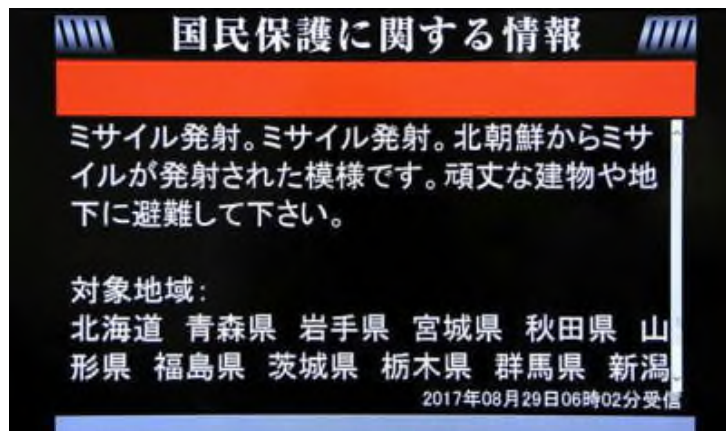
残念ながら昭和の前半は、治安維持法という悪法で暗く息苦しい時代だった。戦争に突入し、完膚なきまで叩きのめされて、人類初の原爆まで 2 基落とされ多大な被

害を受けた時代でもあった。その後の発展は敗戦国からの脱出が進み、しかし、アメリカ一辺倒の政治と経済でいびつな国になってしまった。

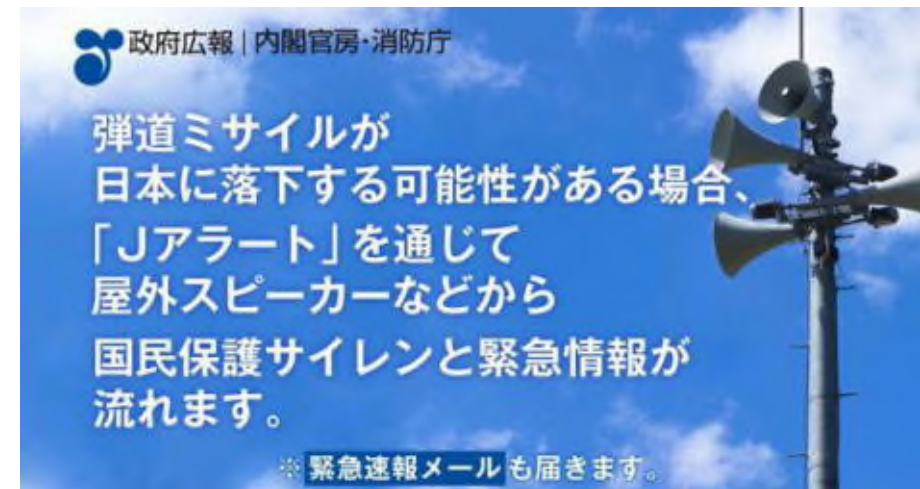
大雑把に時代を表現した。果たして令和という時代はどんな時代になるのだろうか。

少なくとも新天皇陛下がいみじくも言われたように「憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い、国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望」したいものだ。

憲法を閣議で勝手な解釈変更するような下卑たことはしないでほしいものだ。



写真はすべてインターネットから



参考に憲法の一部を抜粋して紹介しておきたい。

どこにも天皇は男子でなければならないとは記載されていない。
ただ世襲に限ると記載されている。国民の総意に基くのみである。

日本国憲法

第一条 天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。

〔皇位の世襲〕

第二条 皇位は、世襲のものであつて、国会の議決した皇室典範の定めるところにより、これを継承する。

〔内閣の助言と承認及び責任〕

第三条 天皇の国事に関するすべての行為には、内閣の助言と承認を必要とし、内閣が、その責任を負ふ。

〔天皇の権能と権能行使の委任〕

第四条 天皇は、この憲法の定める国事に関する行為のみを行ひ、国政に関する権能を有しない。

2 天皇は、法律の定めるところにより、その国事に関する行為を委任することができる。

〔摂政〕

第五条 皇室典範の定めるところにより摂政を置くときは、摂政は、天皇の名でその国事に関する行為を行ふ。
この場合には、前条第一項の規定を準用する。



初夏

人物時計

第二土曜日の再会

大阪ぐりぐりマルシェ
(御堂筋西沿い難波神社境内)

写真・文 中川眞須良

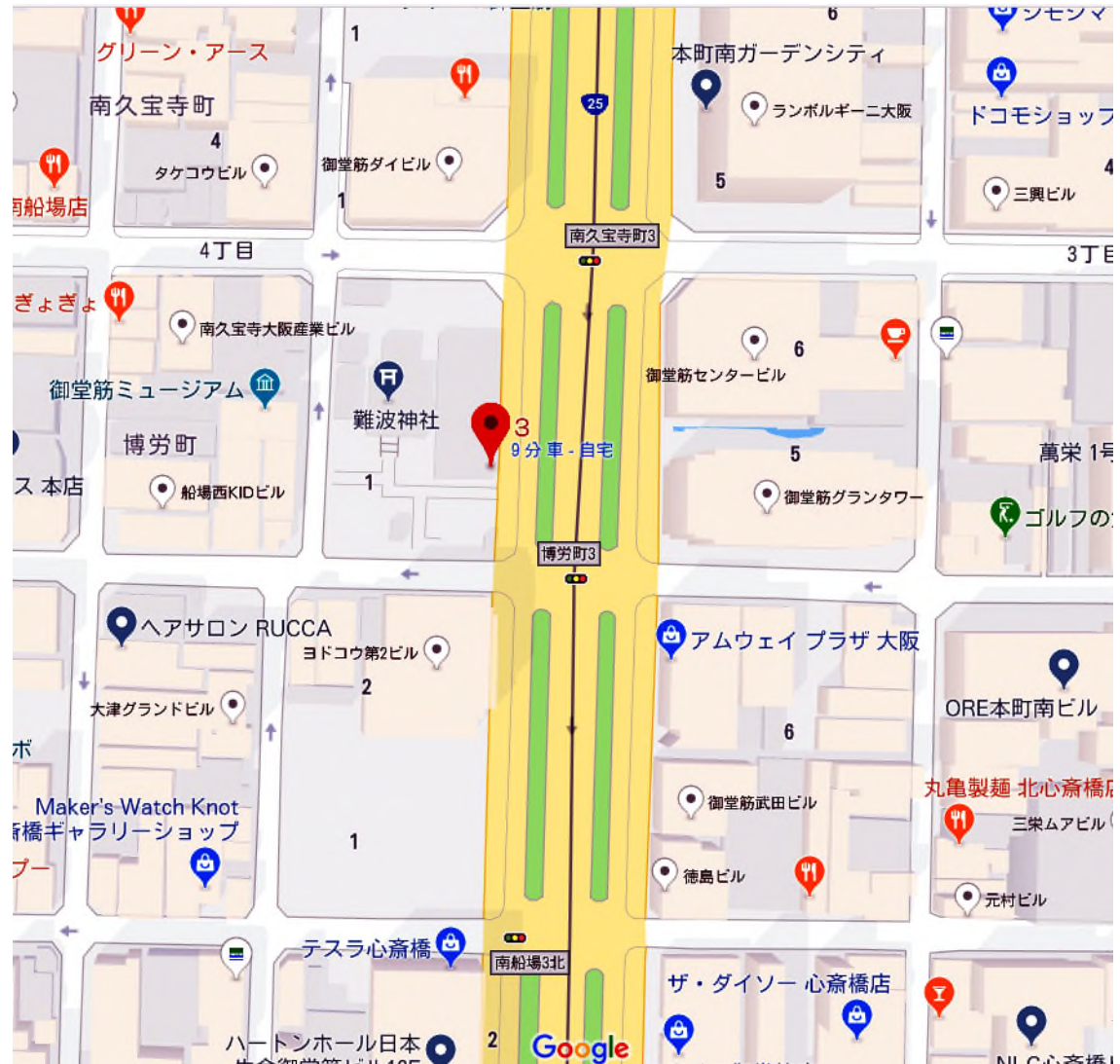
毎月第二土曜日、ここに人と人とのつながりを重視した、自然に寄り添い、大地に負担をかけず、収穫物の旬を大切にし、さらに本来の味を追い求めながらの農産物及びそれらの加工品全般の即売会の「市」が立っている。

取り扱われている品物は現物（コメ・麦・大豆・野菜全般）、加工品（豆腐・こんにゃく・茶・ジャム・油など）、食品以外の関連品（染物・生地・小物・アクセサリなど）、その場で味を楽しめるジュース、コーヒー、カレー、餃子の店など、多様にわたり店舗総数は約 30 に及ぶ。この「市」の一番の特徴は何と云っても、あたたかい人の繋がりや底抜けの明るさである。一店舗 2・3 人（夫婦・親子・兄弟・グループ・友人）とお客様との会話には、笑顔が絶えない。



難波神社の地図

御堂筋
沿いの案
内板と難





角田裕彦 (すみだやすひこ)

オーガニック・ベジタブル スミダファーム 主宰

あらゆるオーガニック野菜を主に大阪市内の数店に
販売。マルシェ出店歴 7年のベテラン

羽曳野市在住 38歳



竹内智美（たけうちともみ）末娘のさくらちゃんと。

有限会社新岡農園マネージャー
紀州かつらぎ町からおいしい自然の恵みをお届けします。
希少柑橘類 紀州のジャバラ（柚子すだちの仲間）をメイン商品に！

2 ha の農園で梅、桃、ぶどう、柿、キウイなどを生産・販売

かつらぎ町在住

編集長が行く

岩手県宮古市田老

万里の長城から万里の巨大壁へ
—海を断つ三陸の海の町—

文・写真 Lapiz 編集長 井上脩身

東日本大震災で津波の被害に遭った岩手県宮古市田老を訪ねた。明治と昭和の津波で大きな被害を受け「津波太郎」といわれたところだ。2度の津波の経験から「万里の長城」と呼ばれる大防潮堤が築かれたが、3・11の津波は防潮堤を破壊し、あるいは乗り越えて田老の集落を襲い、141人の死者・行方不明者がでた。私は地震が起きて3カ月後の2011年6月初めと13年10月初旬、田老を歩いた。今回は3回目だ。前々回は瓦礫が山積みされ、前回は更地が雑草におおわれていた。今回、そこに野球場がつくられており、復興に向かおうとしていることはうかがえた。私が訪れる少し前、「あまちゃん列車」で親しまれている三陸鉄道のリアス線がつながるなど、明るい光が差しこみつつあることはまぎれもない。だが、高台のリアス線の田老駅から、見えるはずの海が見えなくなっている。万里の長城をはるかにしのぐ巨大壁が築かれているためだ。海は人の心を癒してくれる。その海を断つ巨大壁。「復興の街」といえば聞こえはいいが、心の荒廃の街にならないか、と私は危惧する。

安全神話の落とし穴



木っ端みじんに破壊された万里の長城（2011年6月撮影）

田老は宮古市の中心地から北に約10キロ、凹凸の激しいリアス式海岸の狭い入り江の奥まったところに港が築かれている。明治29（1896）年の明治の津波では、高さ23メートルもの巨大津波によって田老地区の全ての民家が流された。死者は1859人に及び、生存者はわずか36人と全滅状態になった。昭和8（1933）年にも6波に及ぶ津波が襲来、911人が犠牲になった。

この2度の体験から、津波から住民を守るための防潮堤を、と昭和の津波の翌年の1934年から6年9カ月をかけて、長さ960メートルの第1の防潮堤が築かれた。その後、第2、第3の防潮堤がつくられ、79年、総延長2・4キロの防潮堤が完成。南北に第1と第3の

防潮堤、東西に第2の防潮堤がX形に交差する構造。地上からの高さは7・7メートル、海面からは高さ10・65メートル。旧田老村時代以来からの市街地は、北半分が第1の防潮堤と第2の防潮堤の東側部分に、南半分が第3の防潮堤と第2の防潮堤の西側部分にと、二重に防御される形状だ。

防潮堤の頂上幅は3メートルと車が通れる広さ。根元幅は25メートルもあり、断面は台形をなしている。頂上の両側には車の転落を防ぐために高さ50センチ、長さ30センチのコンクリートブロックが等間隔に据えられており、中国の万里の長城のような外観。実際、田老の住民たちから「万里の長城」と呼ばれた。

1960年、チリ地震による津波が岩手県を襲い、61人が亡くなった。しかし田老では一人の犠牲者もせず、住民たちは万里の長城に絶大な信頼を寄せるようになった。

防潮堤だけでなく、田老ではさまざまな津波対策がとられた。道路が渋滞すると迅速に逃げられなくなる。そこで道路幅を広くし、交差点では見通しがよくなるよう、角は斜めに切られた。背後の山にも逃げられる道をつくった。こうしたハード面だけでなく、03年、旧田老町は「津波防災の町」宣言をし、「津波に挑戦」を町の合言葉に。昭和の津波が起きた日の3月3日には毎年、避難訓練を実施した。

作家、吉村昭氏は明治と昭和の津波を丹念に取材し、1970年、『海の壁』（後に『三陸海岸大津波』＝文春文庫＝に改題）を著した。そのなかで「大津波が押し寄せれば、海水は10メートルほどの防潮堤を越すことはまちがいない」が、「津波の力を損耗させるので被害は



住宅地跡につくられた野球場

かなり軽減されるだろう」と書いた。吉村氏が予想したように、3・11の津波は二重にもなっている万里の長城を怒濤の勢いで乗り越え、第2の防潮堤を木っ端みじんに破壊した。

吉村氏の推測通り、万里の長城によって津波の力が損耗したのは確かだろう。それでも144人の死者がでた。吉村氏は2006年に亡くなっている。もし吉村氏が存命ならばこの事実をどう考えるだろうか。そんな思いをいだいて私は、3・11の年の6月初め、家がことごとく流された万里の長城の内側を歩いたのだった。

すでに触れたように、町ではさまざまな津波対策をとっている。津波が来る、とわかれば高齢者でも5分もかからずに高台に避難することができた。それでも犠牲者が出たのは、ざっと言えば、①停電していてテレビから津波情報を得られない②万里の長城によって家から海が見えず、津波が押し寄せていることに気づくのが遅れた③万里の長城の外側（海側）に新しい住宅街ができた④万里の長城があるから安心だと思った——の四つの理由からだった。

141人のなかに長城の内側の人は少なくない。その人たちの多くは②と④の理由によるとみられる。ということは、万里の長城が結果としてアダになったことを意味するのではないか。「安全神話」の落とし穴なのでは、と思った。

町分断の目隠しの壁

前回（13年）、田老を訪ねたときは、家が流された跡は一面に雑草が生い茂っていた。津波で破壊された第2の防潮堤の東側部分が取り除かれ、膨大な瓦礫の山もなくなっていた。だが、津波で陸上遠くまで乗り上げたボートがそのまま放置されており、全体としては爪痕が生々しく残っていた。

前々回は宮古からバスで、前回はレンタカーで田老に入ったが、今回は宮古から早朝、三陸鉄道の列車で田老に向かった。田老駅に降り立つと目の前にソーラーパネルが何百枚も連なっている。以前、瓦礫がところ狭しと積み上げられていた所だ。「宮古市スマートコミュニティ田老太陽光発電所」の看板がかかっていた。この太陽光発電所のずっと向こうに、入り江の一部がわずかに見えるだけだ。以前は入り江の海が広がっていたのだが…。視線を左（北）の方に動かすと、積みあげられた土砂の山。さらにその向こうに何やら白い壁。海はこの土砂の山と白壁にさえぎられて見えないのだ。なんと息苦しい景観になったことだろう。

駅から歩いて10分、大防潮堤の端についた。ここは第2の防潮堤の西側部分だ。田老訪問は春の青春18きっぷの旅を兼ね、妻もいっしょだった。まっすぐに伸びる



万里の長城（右）をしのぐ巨大壁（左）

防潮堤を初めて目にした妻は「なるほど、万里の長城ね」と感心したように見とれていた。

防潮堤の上をX形の交差点まで歩いて私はあ然とした。そこから約100メー

トル東に建てられている白い壁がさながらモンスターのよう周囲を圧倒しているのだ。目分量では壁の長さは約300～400メートル。高さはゆうに10メートルを超えている。この新たな壁は海を視界からとざしている。いやむしろ海を拒絶しているのだ。

X地点に説明板が立っていて、岩手県沿岸広域振興局による「田老地区土地利用計画」が図示されている。中央に野球場が描かれており、そのすぐそばでカーブしている道がある。これが万里の長城といわれる現在の防潮堤であることは間違いない。海際に一本の道状の構造物がみえる。どうやらこれが新たな巨大防潮壁だ。高さ14・7メートル、長さ1・2キロ、来年度度完成予定。私が目にしたのはこのうちの一部のようだ。

巨大防潮壁の真下に立った。頂上は見上げるばかりだ。壁は垂直にたっていて、万里の長城のような斜面ではないため閉塞感をおぼえる。この壁の厚みは5メートルほど。頂上部は歩けるようになるのだろうか。歩けるとし

ても、城の石垣の端に立ったときのような恐怖感にかられそうだ。この壁の外は海に面している。海からは陸が全く見えない。ひとこと言えば、田老目隠しの壁だ。海敵対の壁といえなくもない。土地利用計画図によると、埠頭などの港湾設備は壁の外に築かれる。港町田老は、町と港が巨大壁で分断される。

東日本大震災後、田老の住民たちが「田老地区復興まちづくり計画」を策定、市長に提言した。その計画にも高さ14・7メートルの防潮堤がえがかれている。新防潮壁はこの計画に基づいてつくられているのだろう。津波の被害に遭った住民たちが「二度と、というより四度と犠牲者がでることがないように」との強い思いを込めて立てた計画だ。くちばしを入れるつもりは毛頭ないが、海が見えなくなってもいいのだろうか、という疑問が頭から離れない。そもそも同計画には「復興まちづくりの目標」の四つの柱の一つに「漁業のまち、観光のまち、海と親しむまち」が挙げられているのだ。海が見えなければ、海としたしむ観光ができなくなるのでは、と私は心配だ。

あまちゃん列車走るけど

すでに触れたが、今回は青春18きっぷの旅として、仙台からJRで気仙沼に出て、気仙沼からBRT（バス高速輸送システム）で盛へ、盛から宮古へは三陸鉄道リアス線の列車で行き、宮古で一泊した。さらに同線の列車で宮古―田老間を往復、宮古からJRで盛岡に向かった。気仙沼―盛（岩手県大船渡市）間約30キロは地図にも時刻表にもJR大船渡線と記されている。



J R大船渡線を走るBRT

しかし3・11によって同線はずたずたに寸断され、JRは列車運行を断念。線路上を道路にし、バスを走らせることにした。これがBRTだ。2013年3月、バス運行が開始され、気仙沼―盛岡直通バスは現在1日15便運行されている。このBRTはJRの路線なので青春18きっぷが使える。

バスは列車の道から外れて街に出て総合病院前で停車したりしながら、約1時間20分をかけて盛へ。車窓からながめると、どこもかしこも海際に防潮堤が築かれている。そしてその内側ではあちこちで土地のかさ上げがなされている。だがその多くは空き地のまま。土建事業としての復興が進められていることは確かだが、そこに戻ってきていない人が多数いてまだら模様になっている。どうしても復興といたいなら「まだら復興」というべきだろう。

盛からのリアス線列車は白地に赤のラインがはいった2両の車両だ。

リアス線は久慈―宮古間の北リアス線と、盛―釜石間の

南リアス線に分かれていて、いずれも三陸鉄道が運行。南北のリアス線に挟まれた宮古―釜石間はJR山田線の路線だった。リアス線が高台を通過していたのに対し、このJR区間は比較的低い所にレールが敷かれていたことから、津波の被害をもろに受け、不通になった。JRはこの路線を三陸鉄道に移管することに決定、久慈―盛岡163キロ全体がリアス線として運行されることに。そして今年3月23日、特別列車が走り、翌日から一般運行となった。

私が乗ったのは運行開始から1週間後だ。春休み中なのに客は十数人とがら空き。リアス線列車の窓からも、見えるのはコンクリート製の防潮堤の高々とした提門。周囲をへいげいしているようで、青い海が広がる三陸ならではのリアス光景がだいなしだ。釜石市内の駅では「ご支援の皆さま、大変ありがとうございました——がんばるぞ釜石」の横断幕。釜石駅から二つ目の鶴住居駅からは釜石鶴住居復興スタジアムが見える。ここは同市立釜石東小学校と中学校の跡地。中学校の生徒たちが小学生を連れて高台に逃げ切った助かり「釜石の軌跡」といわれた。復興スタジアムは1万6000人が収容でき、今年9、10月のラグビーワールドカップではフィジー―ウルグアイ戦とナミビア―カナダ戦が行われる予定だ。

盛を出発して2時間20分後、宮古駅に到着。翌朝、宮古から田老に向かったのはすでに述べた。田老から宮古に戻る列車が意外だった。天井から万国旗が飾りたてられ、2013年に放映されたNHKの朝のドラマ（連続テレビ小説）『あまちゃん』のポスターが壁にはられている。主人公を演じた有村架純の笑顔が車内を温かくしている。このポスターの下に「じえじえじえ～——この

汽しゃ～あまちゃんのロケさ使ったのでえ～!!」と書れた張り紙。たまたま乗り合わせたこの列車は『あまちゃん』のロケ列車だったというのだ。三陸鉄道は18両の車両を保有している。そのうちの1両に当たったのだ。『あまちゃん』が被災地の人たちに元気をもたらし、お茶の間に笑顔をよんだように、田老が元気と笑顔の町になれるのだろうか。きらめく海がはればれと見えてこそ元気も出て自ずと笑顔がはじけるのではないのだろうか。町を海から隔てる巨大壁。それは人と人との心の壁にならないか。心が殺伐とならないか。よそ者の余計なお世話、と言われればそれまでだが……。



朝ドラ『あまちゃん』のロケに使われた列車内部



人が小さな点に見える巨大な新防潮堤



久慈―盛間をつなぐ三陸鉄道リアス線の列車

神宿る。



杉の大スギ



「杉の大スギ」という。

なんでも須佐之男命（スサノオノミコト）の御手植えだそう。だから 3000 年の歴史を誇る日本一の大杉である。

この「杉の大スギ」は、それぞれ南大杉、北大杉と呼ばれる二株の大杉からなっており、二株が根元で合着している。北大杉は根元の周囲が約 16.5 メートル、樹高が約 57 メートルあり、昭和 27 年に国の特別天然記念物に指定された。所在地の大字が「杉」であるので「杉の大スギ」と呼ばれている。同県出身の詩人・大町桂月は「千早振る 神代の昔しのばれる 雲井にあおぐ 二本の杉」と詠んだ。それほどの巨木である。

所在：高知県大豊町
八坂神社境内





中川眞須良
ミナミ気圧

撮影 大阪 新世界 にて









撮影 2019 年 1 月

旅するカメラ

1200体の羅漢像に囲まれた愛宕念仏寺

写真・文 片山通夫

オタギと読む。オタギネンブツジである。愛宕念仏寺の所在は少し南に有名な化野念仏寺がある京都・嵯峨野である。歴史は古い。同寺のホームページによると次のとおりである。



奈良時代・天平神護二年(766)に、聖武天皇の娘の称徳天皇によって現在の東山松原通の地に寺が建立されます。当時はこの地を、山城国愛宕郡(おたぎごうり)と言いましたが、この寺も愛宕の地に最初に建てられたので愛宕寺と名付けられました。



愛宕はアタゴと読むのだろうが、このあたりを当時は山城国愛宕郷（オタギゴウリ）と呼んでいたとかでオタギ念仏寺と読むようだ。

さてこの念仏寺も化野念仏寺と変わらず仏様（羅漢）が数多おられるので写真で紹介したい。化野念仏寺の石仏は古来この地が葬送の地で風葬が行われていたといわれているが、その後土葬となって石仏を祀るようになった。

愛宕念仏寺は戦時中は住職のいない荒れ寺だったが 1955 年に仏像彫刻家 西村公朝 (1915-2003) が住職に着任し寺の復興がはじまった。1978 年からは境内全体の復興を始め、この時 1200 体の羅漢像で境内を満たしたいと発願し賛同した一般市民の参加して現在に至っているという。























歴史の街を行く

文・写真 片山通夫

出雲王国

スサノオ追跡

その1



スサノオ。國輝画「本朝英雄傳」より

島根県の出雲地方には古代から壮大な神話が残っている。その出典は古事記と日本書紀、所謂「記紀」である。

その特筆すべき神がスサノオである。

古事記には、神産みにおいて伊邪那岐命（イザナギ）が黄泉の国からほうほうの体で帰還し、筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原で禊を行った際、天照大御神、月読命に次いで鼻を濯（すす）いだときに産まれた男神である。

スサノオは建速須佐之男命（たけはやすさのおのみこと）というのが正式名のようだ。そして素戔男尊、素戔鳴尊、須佐乃袁尊、神須佐能袁命、須佐能乎命などと異名をもつ。

ここでは便宜上スサノオと呼ぶこととしたい。

アマテラスは天界を、ツキヨミは夜の世界、そしてスサノオは大海原を治めるよう言われるがスサノオは母神のいる黄泉の国へ行きたいと願った。

その黄泉の国への入口は島根県東出雲町の「黄泉比良坂」（よもつひらさか）であるとされる。



黄泉比良坂（よもつひらさか）

「黄泉比良坂」は 黄泉（よみ）の国（あの世）と現世の境界とされ、古代出雲神話の中で、イザナギ（伊邪那岐）命が先立たれた最愛の妻イザナミ（伊邪那美）命を慕って黄泉の国を訪ねて行かれるその入口が、黄泉比良坂（よもつひらさか）であると伝えられている。古事記ではこの地を出雲国の伊賦夜坂（いふやざか）であるとしている。

次にこの地に伝わる黄泉比良坂物語を松江観光協会の HP から紹介したい。

<http://u0u1.net/5wrm>

黄泉比良坂物語



千引の石（ちびきのいわ）

古事記や、日本書紀にあるこの神話を分かり易く、また古老の言い伝え等をまじえて、この物語としたい。

男神イザナギの命、女神イザナミの命の二神は、天つ神の「お前たち二人心を合わせて国土を生み、もろもろの神々を生んで、天の下の国と神々を立派に作るように」との仰せに従い、オノコロ島に立って、淡路、四国、隠岐、九州、壱岐、対馬、佐渡、本州といわゆる大八洲の

国土を作られ、次にはその国に住む様々な神々をお生みになり、最後に火の神をお生みになったが、この時イザナミの命は女の大切な女陰を焼かれてお亡くなりになった。

イザナギは亡くなった妻のイザナミに逢いたくて、あとを追いかけて黄泉の国へ行かれた。しかしここは死者だけのいる国であった。イザナギは大声で「我が最愛の妻イザナミよ。お前と二人で作った国はまだ作りおえておらぬ。早く還ってほしい」といわれた。けれどもイザナミは「それは残念でした。もっと早く迎えに来てくださったならよかったのに。私はもう黄泉の国の食べ物を食べてしまいました。でもあなたがわざわざ迎えに来てくださったので、何とかして還りたいので、黄泉の国の神々に相談してみましよう。しかし私が返事を申し上げるまでは絶対に来られてはいけませんよ」と消えて行かれた。

イザナギは待てども待てども返事がないので、とうとうしびれを切らし約束を破って真っ暗な黄泉の国へ入り、髪にさした櫛の歯を一本折ってそれに火をつけあたりをご覧になった。そこには体中に蛆のわいたイザナミの体が横たわっており、体の八か所には雷が生まれふた目と見られぬひどい姿であった。



揖屋神社拝殿

驚いたイザナギは恐ろしくなって一生懸命逃げ還ろうとされた。ところがイザナミは「あれほどここへ来られぬようにと約束したのにそれを破って、私に辱をお見せになった」と大へん怒り、黄泉の国の魔女たちを使って大勢が追いかけた。追われたイザナギは、髪飾りにしていた木の蔓を投げたら葡萄がなったり、櫛の歯を折って投げたら筍が生えた。魔女たちがそれを食べている間に逃げられたが、今度は黄泉の国の魔軍たちが大勢追いかけてきた。イザナギは黄泉比良坂の坂本まで逃げたところに折よく桃の木があり、その桃の実を投げつけてやっと退散させることが出来た。そこでイザナギは「お前が私を助けたように、この葦原の中つ国に暮らしている多くの人たちが苦しい目にあった時には助けてやってくれ」と仰せられオホカムヅミの命という名を、桃の実に

つけられた。

けれども最後にはイザナミ自身が追いかけてこられたので、イザナギは黄泉比良坂にあった大きな岩（千引の石）で道をふさいでしまわれた。その岩を中にしてイザナミは「あなたが約束を破ってこんな目にあわされたから、もう私はあなたの国へは還らない」といわれた。イザナギは「私は今でもお前が恋しくてならない。けれどもそんなに腹が立つなら仕方がない。別れることにしよう」とお互いに別離のことばを交わした。イザナミは「あなたがこんなことをしたからには、これから後あなたの国の人間を毎日千人ずつ殺す」といわれた。イザナギは「お前がそんなことをするなら私は毎日千五百の産屋をたててみせる」と仰せられた。そのようなわけで日本の人口は増えるといわれている。

このイザナミの命を黄泉津大神と申し、今の揖夜神社の祭神である。

このように記紀などからみると夫婦喧嘩の神であり、イザナミの命は不幸な神であったようにも受けとられるが、神は人間社会の不幸を救う存在として奉ったもので、神話の意図するものは夫婦仲良くすること、また女性は出産という大役を持つもので、産後が悪くて早く他界されたイザナミの命は女性の守り神となり後世あがめられた。今の揖夜神社の元宮は五反田にあり特に女性の諸病にはご利益があったと伝えられている。また桃の実の神オホカムヅミの命とは黄泉比良坂東方の山の上にある荒神森のことではなかろうか。



荒神社祭神はスサノオ（揖屋神社）

イザナミが黄泉の国に隠れた後をつけて通った谷を、今もつけ谷（付谷）といい、山坂道を追っかけ上がった坂を追谷坂（大谷坂）とよばれている。その峠には塞の神（道祖神）が祀ってあり、そこを越した所がヨミジ谷であって、ここに神蹟伝説の碑が建っている。この碑から西に行けば前記の付谷を渡り山越えして五反田、そこから勝負を越して須田方面に向かう。東方に行けば中意東越坂から、馬場に出て雉子谷を越えて高丸から安来市の岩舟方面に通じる。南方には山の峯道より上意東から荻山（京羅木山）や星上山に通じたのが大昔の道であったとは古老の語りぐさである。（比良坂神蹟保存会）

秋号に続く

